

千葉市美浜区幕張埋立地鳥類目録

Birds of Makuhari Reclaimed land, Chiba Prefecture, Central Japan

桐原政志¹ 桑原和之²
 Masashi Kirihara¹ Kazuyuki Kuwabara²

キーワード：コアジサシ、シギ・チドリ類、スズガモ、鳥類相、東京湾

1 はじめに

東京湾岸でバードウォッチングを楽しむ人口は多い。したがって、首都圏での鳥類の観察記録は多く、有名観察地の観察記録は極めて多い。しかし、観察記録をまとめる研究者は少なく、記録は散逸してしまうことが多い。リストなどもまとめられていない地域が多い。案外、観察記録が極めて多く有名な探鳥地ほど、鳥類相を総合的にまとめ公にされていることがないように思われる。さらに、個々の地域の鳥類相を統括し、まとめ考察した報告は千葉県1975などだけである。千葉市内陸で生活する鳥類に関しては、都市近郊に生息する種であるといえ、近年多くの報告があるが、海岸部や谷津干潟に隣接した幕張埋立地の鳥類相についても詳細には報告されていない。

本報告では、個体数調査、センサスや文献をもとに、埋立事業が開始され、陸地が形成した1975年から、1996年までの記録をまとめる。ただし、今回は海岸部で生活する種や花見川周辺などに生息する種について簡単に記載するが、各種鳥類についての年による個体数の変遷や季節的な個体数変動などの解析については別の機会にまとめたい。

2 調査地概要

千葉市の面積は272km²で、千葉県下では君津市、市原市に次ぐ広さである。千葉市の人口は

約85万人であり、首都圏でも人口が集中し、大きな都市であるといえる。千葉県の県庁所在地でもあり、住宅が立ち並び、海岸の埋立地には工場や倉庫が密集している。市内には6つの行政区があり、海岸部に美浜区が位置する(図1)。

幕張埋立地は、美浜区のほとんどを占めている(35°39'N, 140°03'E)。1973年より始まった埋立事業により、造成された埋立地である。この埋立事業は、1980年に完了し、現在は国際見本市である幕張メッセを中心にした幕張新都心計画に基づいて、幕張テクノガーデン・幕張タウンセンター・幕張ワールドビジネスガーデン・千葉マリスタジアム及び専門教育機関の集積などの計画が推進され、種々の建造物が造成されつつある。かつての幕張海岸には、人工海岸の幕張の浜や幕張C浜がある。幕張C浜は立ち入り禁止地域となっているため、水鳥が多い。

1996年現在みられるこの海岸線は、著しい環境の変化をとげてきた。本来、当地は潮干狩りやノリの養殖が盛んに行われていた遠浅の海であった。しかし、1960年代からおこなわれた東京湾の埋立の波及は、やがて当地にも及び、1973年より埋立事業が開始された。埋立は、おもにサンドパイプによって運搬された沖部海底の堆積土を利用され、1975年までは泥状の埋立地であり、人などは歩くことができないほどで

あった。

1975年から土が乾燥し始め、埋立地に広大な裸地ができあがった。やがて、裸地のいたる所に水たまりができ、そこにカモ類やシギ・チドリ類をはじめとする水鳥が休息・採食のために飛来するようになった。その後、埋立地の乾燥化に伴い植物が進入がした。1977年頃には埋立地一面は、低茎草原となった。さらに1979年頃よりヨシの群落が目立つようになり、セイタカアワダチソウを中心とした高茎草原が徐々に現れてきた。この間に鳥類の変遷も目立った。最初にヒバリ・セッカ・オオヨシキリといった草原性の陸鳥が繁殖するようになった。一方、埋立地の乾燥化や植物の進入が進むにつれて、水たまりや湿地だった地域は、次第に減少し、水鳥の個体数は減少していった。

1980年に埋立事業が完成した後、埋立地内に様々な建造物が建設されるようになった。これにともない草原や水たまりであった地域は、急速に消失した。そして、草原の減少とともに草原性の陸鳥や水鳥は激減した。逆に、市街地化が進行すると同時に街路樹や公園の緑地化のための植栽が行われ、それまでは埋立地内にほとんど存在しなかった樹木が植栽された。樹林性のウグイスやシジュウカラ・ヒヨドリなどの種が埋立地に進出し、周年を通じて観察されるようになった。

1986年3月のJR京葉線の開業、1988年10月の幕張メッセのオープン後は、道路の整備・ホテルなどの高層建造物の工事が急速に行われ、埋立地はごく一部の未工事地を除いて完全に都市と化した。現在は、都市環境に順応したハシブトガラスなどごく一部の種が見られるだけとなり、水鳥は幕張の浜や海上で生活し、埋立地内で記録されることは少なくなっている。

3 研究の経緯と調査方法

筆者の一人の桐原は、1971年より調査地でのコサギの観察をはじめた。その後、1975年より鳥類全般の記録を収集し、鳥類相の把握を試みた。個体数調査や観察を定期的に行いセンサスでは観察された種の個体数を全て記録している。1982年以降は毎月1回ずつ水鳥とワシタカ目・キジ目・フクロウ目とカラス科などの大型陸鳥のカウントを行ってきた。桑原は1990年以

降、美浜区若葉、豊砂、幕張C浜などで月3回程度カウントを行ってきた(桑原1996)。

当地における鳥類の研究としては、茂田、尾崎、百瀬らの標識調査があげられる。1974年から埋立地で繁殖するコアジサシやシロチドリの調査が行われてきた。また、その調査は東邦大学海洋生物学研究室での研究例が多い。例えば、繁殖期におけるシロチドリの報告(中沢1979)とコアジサシの報告(Niimi 1979)などであり、地上営巣性の種の研究は山階鳥類研究所標識研究室の調査に引き継がれている。近年は、千葉県立中央博物館や日本野鳥の会などのコアジサシに関する桑原ら1996、金井・磯部1990、東ら1996などの報告が公表されている。

ただし、鳥類相に関する研究は、陸鳥の進入の経過に関する桐原1989があるだけで、鳥類全般に関する総論はまだ公表されていない。また、鳥類相を検討する際に必要な各種にかんする出現状況や目録は、まだ作成されていない。

4 幕張埋立地の鳥類相

4-1 種構成

1975年から1996年の22年間に189種の鳥類が記録されている。記録種をアビ目・カイツブリ目・ミズナギドリ目・ペリカン目・コウノトリ目・ガンカモ目・ツル目・チドリ目などの水鳥とワシタカ目・キジ目・ハト目・ホトトギス目・フクロウ目・ヨタカ目・アマツバメ目・ブッポウソウ目・キツツキ目・スズメ目の陸鳥に分けて、谷津干潟、行徳鳥獣保護区、小櫃川河口などの地域と比較した。

幕張埋立地の鳥相の特徴として、干潟や湿地で生活する種が多いことがあげられる。189種のうちチドリ目の種が68種、ガンカモ目が25種と合計93種を記録し、この2目で全記録種の半分近くを占めている。なかでも、チドリ亜目、いわゆるシギ・チドリ類の種数は特に多く、47種が記録されている。これは、埋立地の環境の変遷と関連している。干潟や淡水性湿地・砂地・テトラポットによる岩礁といた環境を形成したことによる。埋立地には多様な水辺環境が出現したため、各環境で生活するシギ・チドリが、湿地の変遷に対応し、それぞれの生息場所で観察されたからである。

カモ類の種数が多い傾向も、前述の理由のほ

かに海岸が広がっていたためと言える。海や、埋立地内の水たまり・花見川・浜田川などの淡水域・汽水域といった多様な水域が存在するため、いわゆる海ガモから淡水ガモまで広く記録されている。特に、乾燥した広大な草原の中に水たまりが点在していた1980年～1984年の5年間、国内では珍しいアカツクシガモが毎年渡来し最大数12羽まで達したことは特筆される。

東京湾に面した他の所と比べ、アビ目・カイツブリ目・ミズナギドリ目に属する種の記録回数・記録個体数が多いことも幕張埋立地の鳥類相の特徴である。千葉県内陸でもミズナギドリ類は拾得されるが、幕張では拾得されるより目撃されることが多い(桑原1990)。これは、当地の海底が埋立の際に掘られたために陸地のすぐ近くまで海の水深が深くなっていることと関係しているのだろう。特に最近、カムリカイツブリの飛来数が多くなっていることも顕著な例である。

陸鳥は61種確認されており、全体では32%を占めている。内訳は、スズメ目が42種で最も多く、続いてワシタカ目10種、フクロウ目4種となっている。キジ目は3種、キツツキ目は2種、ハト目・アマツバメ目・ブッポウソウ目はそれぞれ1種づつ記録されている。これらの陸鳥もヒバリ・オオヨシキリ・セッカ・オオジュリンといったヨシ原・湿地や草原で生活する種の記録数が多いことが特徴であり、森林性の種は、現在のところあまり記録されていない。千葉市土気周辺で繁殖しているエナガやホトトギスなどの記録もない(石井ら1994)。

しかし、最近の市街地化によって埋立地内に植栽された樹木が増えてくるに従い、シジュウカラやメジロ・ウグイスといった森林性の種の記録が徐々に増えてきている。逆に、ヨシ原などが造成や開発のため減少し狭められていくことにより、草原性種は、少しづつ減少してきている。このため、数年後の21世紀にはこの2つのグループの関係は逆転する。その兆候は草原性の猛禽類の減少にすでに現れている。ヨシ原に冬鳥として飛来するチュウヒやチョウゲンボウ・コミミズクなどの個体数が多いことで当地は、野鳥観察者の間でも有名だった。これらの種も1990年以降観察例も減少しており、草地の減少に伴い激減している。

4-2 繁殖

渡りの区分で見ると、夏鳥はツバメ・オオヨシキリ・コヨシキリ・コチドリ・コアジサシなどごくわずかで、冬鳥や旅鳥が多い。これは当地を越冬地か渡りの途中の休息地として利用している種が多いことを示している。繁殖が確認された種は、カイツブリ・カルガモ・オカヨシガモ・バン・オオバン・タマシギ・コチドリ・シロチドリ・コアジサシ・セイタカシギ・ヒバリ・ツバメ・ヒヨドリ・オオヨシキリ・セッカ・スズメの16種である。これは、低地の埋立地で繁殖する鳥類相の特徴をよく示している。

行徳鳥獣保護区では31種の繁殖が確認されている(蓮尾1986)。当地と同様の環境の谷津干潟での繁殖種数は15種で(石川・桑原1984)、小櫃川河口では11種が記録されている(百瀬・桑原1988)。植栽林が多く、観察日数が極めて多い行徳に比べると繁殖種は少ないが、谷津干潟や小櫃川河口などの記録種よりは多く、比較的湿地が広がったことも一因である。

繁殖の記録の中で特筆すべきものは、セイタカシギとオカヨシガモである。セイタカシギは、愛知県の鍋田干拓地・千葉県京葉埋立地に次ぐ日本3例目の繁殖記録であり、オカヨシガモは北海道以外では初めての繁殖記録だった。

幕張埋立地は、繁殖シーズンである春から夏に野鳥観察に訪れる人が少ないこともあって、繁殖の確認された例は少ない。前出の16種以外にヨシゴイ・ツバメチドリ・キジバト・ハクセキレイ・モズ・シジュウカラ・カワラヒワ・ムクドリ・オナガは、繁殖期に観察されたり、巣立ち直後と思われる幼鳥の記録があることなどから繁殖していた可能性が高い。

繁殖記録は残されていないが、ハシブトガラスは繁殖していると考えられる。また、コジュケイの観察記録のいずれもが、幕張の浜の防砂林で記録されているので植栽林周辺で繁殖していると思われる。また、キジは埋立地の草地で見られることが多く本種も繁殖していると考えられるが記録は残されていない。ただし、キジの繁殖場所は減少している。そのほか、コヨシキリも繁殖期間の観察例なので繁殖していると思われる。また、コアジサシのコロニーの雛を育雛のため補食し何回も運ぶチョウゲンボウが

若葉や豊砂で観察されており、埋立地周辺で繁殖している。ただし、千葉市内で繁殖しているアオバズク・ホトトギス・エナガ・ツミ・ヤマガラなどは観察記録もなく、サシバなどはまれに通過するに過ぎない。

4-3 減少している希少種

干潟や浅瀬の減少にともない水鳥が激減している。本来の湿地の減少にともないタマシギなどの種が現在ではほとんど観察されなくなった。タマシギは、1974～76年には繁殖していたが、1977年には観察例のみになり1978年以降は観察例も稀になったが、本種は千葉市内でも稀になっている。埋立地の湿地の減少にともない、タカブシギやヨシゴイなどの種が減少した。ウズラシギ・ヒバリシギやオジロトウネンなどの種も現在では稀であり、記録も少なくなった。湿地の減少とともに埋立地の裸地が地上営巣性の種の繁殖地となった。埋立地に形成された広大な裸地は、コアジサシとシロチドリの繁殖地となり、この2種の個体数は埋立地でも特に多かった。ただし、近年の市街地化に伴う裸地の減少から、地上営巣する種の繁殖地は減少している(桑原 1995)。幕張での繁殖数は極めて多く、この繁殖地の消失は極東地域で繁殖するコアジサシの個体群にも大きな影響を与えたと考えられている。コアジサシだけではなくシロチドリやコチドリの営巣地も国内で急速に減少しており、繁殖地の保護は個体群の維持のために必要である。

5 調査地周辺の地域の鳥類相の比較

5-1 海岸部の鳥類相

千葉県内の東京湾に面した谷津干潟、行徳、小櫃川河口などの観察記録を見ると、行徳鳥獣保護区では1975年～1986年に204種(蓮尾 1986)、谷津干潟周辺では1975年～1983年に170種が確認されている(石川・桑原 1984)。また、小櫃川河口では1974年～1986年に191種(百瀬・桑原 1988)、1995年までに214種が確認されている(箕輪ら 1996)。幕張埋立地で記録された種数で比べると、以上の地域とほぼ同等の水準であるといえる。

さらに、出現種を比較すると、幕張埋立地-谷津干潟の種構成が似ており、行徳鳥獣保護区

-小櫃川河口が互いによく類似した構成となっている(表1)。幕張埋立地や谷津干潟では他の2カ所に比べ、陸鳥の占める割合が少ない。これは、行特鳥獣保護区や小櫃川河口は古くからクロマツ林をはじめとする樹林地が植栽されていたが、海域を比較的最近に埋立て造成された幕張や谷津に樹林が少なく、まだ樹林性の鳥がそれほど進出していないからである(後述)。幕張埋立地と谷津干潟の鳥相の類似性は、各目ごとの記録種数で比較してもよく一致している。埋立の歴史以外にこの2カ所間の距離が約2.5Kmでしかないことも関係している。

また、幕張から習志野茜浜沖と葛西沖でしかカンムリカイツブリの5,000羽を越すような大きな群れは観察されておらず、報告例もない。この種の分布や個体数の変動に関しては不明な点が多く、今後の調査が必要である(桑原・和仁 1996)。また、千葉市内でシギ・チドリ類の群れが見られる地域は幕張の浜や幕張C浜の干潟だけであるので、海岸の鳥類相を維持するためには、特に幕張C浜の保護が重要な課題となるであろう。

5-2 陸域部の鳥類相

千葉市の北には、四街道市、佐倉市、成田市が位置し、印旛沼が広がる。これらの市では、千葉市に比べ公園や緑地が多い(千葉県都市部公園緑地部 1993)。ただし、美浜区には広大な埋立地が広がり、鳥類が生息する水田や緑地は少ない。環境はむしろ、東京に近い浦安市、市川市、習志野市などの東葛地域などに類似している。したがって、鳥類相も千葉市の内陸と海岸の地域ではやや異なる。

千葉県立中央博物館(以降、博物館)は、中央区青葉町に位置しており、陸鳥の種構成や鳥類相は千葉市の内陸であっても幕張に近いと考えられる(桑原ら 1994)。博物館には1haの舟田池(以降、池)があり、タブ林、スタジイ林、アカガシ林、モミ林、アカマツ林、シラカシ林などの植栽林があり、鳥類の生息地となっている。博物館や生態園の北に位置する池周辺の鳥類調査は1982年から継続されており、1983年には唐沢が、1988年には桐原らが調査を行い調査は継続された(桐原ら 1988, 1989, 1989)。1996年以降の鳥相については桑原 1997にまとめ

られている。博物館周辺では、1996年12月までに149種が記録されている（桑原ら1996）。

1990年まで舟田池は造成工事のため環境が著しく変化した（青木・桑原1991）。池への注水や雨水が一時的に溜まり増水したときに、カモ類やバンなどの水鳥が飛来した（青木ら1992）。また、水がなくなり湿地が形成されると、すぐにサギ類やシギ・チドリ類などの採食場所になった。1991年以降は池の水位も安定したため水鳥の種構成も安定した。このように水辺の環境が変化したために記録された種数も多かった。ただし、ササゴイ、オシドリ、クイナ、クサシギ、ヤマセミなどの種以外の水鳥は全て幕張で記録されている種である。また、博物館周辺では、植栽や造成が1988年ころから1990年まで繰り返されたため、陸鳥の生息状況の変化も大きかった。陸鳥の生息環境は二次林、植栽林、池の周辺などの各環境であったが、それぞれの環境が短期的に著しい変化を繰り返していた。このため、造成中からその直後の1988～1990年間の鳥類相の変化も大きかった。1992年以降は陸鳥の種構成も安定した。この変遷の記録は、埋立地での鳥類の変遷を凝縮している。ただし、レンジャク類やアトリ、ベニマシコ、ウソ、イカルなどのアトリ類のほかムシクイ類、ヒタキ類は、博物館ではよくみられるが、幕張では観察されていない。千葉市内陸でみられるミソサザイ、アカゲラ、トラツグミ、ミヤマホオジロなどの種はまだ幕張では記録されていない。幕張埋立地での鳥類相の変遷も博物館周辺の変遷などと類似していると考えられるので、今後調査地では植栽林地などで記録されるだろう。

6 千葉市美浜区幕張埋立地鳥類目録

1996年12月までに、千葉市美浜区幕張埋立地で記録されたすべての種を記載した。ただし、著者以外の記録は、観察した人の承諾を得て私信として記載した。観察されているが、状況などが不明確である記録は記載しなかった。記載する際には、稀な種や観察例数の少ない種に関しては、観察された年月日、性別、年齢、夏羽、冬羽、羽数などを記載した。（ ）には、観察場所、その状況、観察者などを記載した。野外識別による年齢判定は、観察者により判定

の基準が異なるため、観察者の記録をそのまま引用し、羽色の後に記載した。幼羽Jと第1回冬羽1st.Wは幼鳥、その判定ができなかったが成鳥羽ではなかった個体は、亜成鳥や若鳥とした。注釈をつける際、観察例数の少ない種の記録や文献などに掲載されていない種の記載を極力多くし、普通種については、著者らの観察記録に基づいて記載し、なるべく簡潔にした。また、普通種であっても経年変化が著しくみられる種に関しては、簡単なコメントを並記した。個体数の少ない種は、一般的に留鳥であっても、観察例のない期間があり、一般的に冬鳥といわれる種についても、連続した記録がない場合がある。これらの種はセンサスデータや文献などを参考にして記載し、主観にたよらないよう留意した。以上のような作業を行って、1996年までに記録された種を文献や観察記録を参考にし、観察状況などにより渡りの区別を表1にまとめた。

標本番号(CBMZB-)は千葉県立中央博物館に収蔵された標本の番号である。また、日本野鳥の会千葉支部が毎月発行している会報：ほおじろからも記録を収集した。記載に際しては、千葉支部幹事会の承諾を得て引用した。引用は、岡村裕透、ほおじろNo.103などとし、観察者のあと会報の号数をつけ加えた。引用した号数は以下の7、11、16、19、21、45、46、47、57、63、66、67、68、73、76、78、80、84、103、などの号である。また、千葉県野鳥の会が1981～1990年に発行した会誌（房総の鳥）も引用した。文献などにより種ごとの初認、終認、群れの大、小などを詳細に収集し、記録がもれないように注意した。さらに、観察例が報告されている場合は、桐原1991などのように文献を掲載した。なお、学名は日本鳥学会1974などにしたかった。

Gaviiformes アビ目

Gaviidae アビ科

1. *Gavia stellata* アビ

10月～2月にかけて海上で記録されているが、特に11月～12月に記録が集中している。6. Dec. 1981 1羽、23. Nov. 1982 5羽以上、30. Oct. 1983、1. Jan. 1986 8羽、23. Feb. 1986 1羽、23. Feb. 1984 2羽。

2. *Gavia arctica* オオハム

次の1例のみ。26. Feb. 1984 2羽。

3. *Gavia pacifica* シロエリオオハム

次の2例のみ。26. Nov. 1978 1羽、18. Feb. 1979 1羽。本種は、前種オオハムとの識別が困難なため確実な記録は少ない。だが、10月~12月にかけて8回、計45羽が*Gavia* sp.として記録されている。

Podicipediformes カイツブリ目

Podicipitidae カイツブリ科

4. *Podiceps ruficollis* カイツブリ

留鳥。個体数は多くない。埋立地内の水たまりや花見川河口部で周年生息し、繁殖も記録されている。近年水たまりの消失に伴って少なくなり、1990年以降繁殖記録はない。28. Aug. 1976 9羽、15. Jun. 1980 成鳥4羽 幼鳥2羽、1. Jan. 1983 3羽、12. May. 1985 2羽（海上）、24. Dec. 1989 1羽。

5. *Podiceps nigricollis* ハジロカイツブリ

9月~4月にかけて主に海上でみられる。2月~4月には個体数が増え、100羽以上が記録されることがある。15. Jan. 1978 6羽、5. May. 1981 1羽（埋立地の水たまりで）、15. Sep. 1987 1羽（花見川）、21. Mar. 1989 293羽、25. Nov. 1990 23羽。

6. *Podiceps auritus* ミミカイツブリ

東京湾では稀。30. Oct. 1983 1羽（冬羽）などのほか、次の3例の報告がある。21. Mar. 1978 3羽+（亀谷辰朗：千葉支部報No.48）、5. Dec. 1983 羽数不明（乾建樹：ほおじろNo.59）、12. Jan. 1986（斉藤伸一：ほおじろNo.59）。

7. *Podiceps grisegena* アカエリカイツブリ

10月~4月にかけて主に海上で記録されている。特に1月~3月に記録が多い。30. Mar. 1978 5羽（うち2羽は埋立地内の水たまりで）、1. Jan. 1986 23羽、29. Apr. 1986 3羽（夏羽）、5. Oct. 1986 1羽、23. Nov. 1988 1羽。

8. *Podiceps cristatus* カンムリカイツブリ

10月~4月にかけて海上で記録されている。1987年より飛来数が急激に増加している。24. Nov. 1980 1羽、31. Dec. 1987 264羽、29. Apr. 1989 夏羽3羽、15. Oct. 1989 1羽、15. Jan. 1990 1,639羽。

Procellariiformes ミズナギドリ目

Diomedeidae アホウドリ科

9. *Diomedea immutabilis* コアホウドリ

2例が知られる。24. May. 1992 1羽、23. Dec. 1994 1羽。

Procellariidae ミズナギドリ科

10. *Bulweria bulwerii* アナドリ

千葉県では次の1例のみが知られる。27. May. 1984 1羽（幕張の浜沖、トウゾクカモメ類やハシボソミズナギドリなど飛翔する中、1羽がみられた。）。

11. *Calonectris leucomelas* オオミズナギドリ

主に秋期に沖を飛翔する群れが見られる。28. Sep. 1982 数万羽の大群、29. Apr. 1983 1羽、3. Nov. 1983 13羽、30. Oct. 1988 約400羽、21. Jun. 1989 約100羽。

12. *Puffinus carneipes* アカアシミズナギドリ

1例が記録されている。15. Mar. 1995 1羽。

13. *Puffinus griseus* ハイイロミズナギドリ

5月~6月にかけて次の5例が記録されている。27. May. 1984、10. Jun. 1984、17. Jun. 1984 数十羽、19. May. 1985 約10羽、4. Jun. 1988。

14. *Puffinus tenuirostris* ハシボソミズナギドリ

旅鳥。主に5月下旬から6月にかけて沖を飛翔する群れがみられる。低気圧に伴う強風により迷行した個体が稀に保護されることもある。29. Apr. 1983 1羽、20. Nov. 1983 1羽、27. May. 1984 約1,000羽、17. Jun. 1984 106羽、21. Jun. 1989 約20羽。

Hydrobatidae ウミツバメ科

15. *Oceanodroma furcata* ハイイロウミツバメ

1例の拾得記録がある。26. Apr. 1977 死体1羽（茂田良光・百瀬邦和・竹田伸一：千葉県立中央博物館に収蔵 CBMZB-1301）。

16. *Oceanodroma monorhis* ヒメクロウミツバメ

次の1例のみ。15. Sep. 1978 1羽（小雨の中、海上を飛翔していた。）。

17. *Oceanodroma tristrami* オーストンウミツバメ

次の記録のみ。迷鳥。低気圧に伴う強風により迷行した個体が極稀に記録される。10. Jun. 1984 3羽。ほかにも2例の記録がある。4. Jun. 1987 2+羽（浅子明：ほおじろ No.76）、1. Jun. 1989 2羽（岡村裕透：ほおじろ No.103）。

Pelecaniformes ペリカン目

Phalacrocoracidae ウ科

18. *Phalacrocorax carbo* カワウ

東京湾内では留鳥である。1980年代は時々みられるだけであったが、1990年代には周年海上で見ることができるようになった。秋期・冬期にはその数が増える。29. Apr. 1978 7羽、15. Sep. 1980 1羽、1. Jan. 1986 3羽、24. Sep. 1989 257羽、17. Aug. 1990 1羽。

19. *Phalacrocorax capillatus* ウミウ

東京湾奥部では稀。次の2例のみ。10. Sep. 1981 1羽、29. Apr. 1989 1羽。

20. *Phalacrocorax pelagicus* ヒメウ

東京湾では稀。いずれも海上で次の4例が記録されている。24. Dec. 1983 1羽、9. Jan. 1984 1羽、23. Dec. 1984 1羽、12. May. 1985 4羽。そのほか次の1例が報告されている。9. Nov. 1986 1羽（田中利彦：ほおじろ No. 68）。

Fregatidae グンカンドリ科

21. *Fregata ariel* コグンカンドリ

15. Aug. 1978 若鳥1羽などのほか次の1例がある。22. Sep. 1986 1羽（埋立地上空を飛翔し飛び去った：鈴木 明私信）。

Ciconiiformes コウノトリ目

Ardeidae サギ科

22. *Ixobrychus sinensis* ヨシゴイ

1988年までは夏鳥として飛来していた。記録された、個体数は少ない。近年、国内の湿地でも急速に減少している。5月末から9月上旬にかけて埋立地のヨシ原で記録されているが、'89年以降記録はない。1. Aug. 1982 1羽、19. Jun. 1983 2羽、26. Aug. 1985 若鳥1羽、2. Sep. 1985 雄1羽、23. Jul. 1988 1羽。

23. *Nycticorax nycticorax* ゴイサギ

留鳥。周年を通じて観察される。越冬期間に個体数が増すため5月～11月にかけて記録が多い。20. Aug. 1978 4羽、27. Jul. 1980 若鳥1羽、23. Nov. 1983 若鳥1羽、12. May. 1985 2羽、14. Sep. 1985 3羽。

24. *Bubulcus ibis* アマサギ

夏鳥。千葉市内では少なく渡りの季節にみられる。次の3例のみ。28. Aug. 1976 2羽、25. Sep.

1976 1羽、11. May. 1993 16羽（メッセ駐車場、桑原・箕輪ほか、1995）。

25. *Egretta alba* ダイサギ

千葉県内では留鳥であるが、当地での個体数は少ない。秋期に個体数が増加するが越冬期の個体数は少ない。周年、生息する。22. Feb. 1976 1羽、19. Oct. 1980 14羽、1. Jan. 1982 2羽、26. Apr. 1983 3羽、23. Sep. 1990 23羽。

26. *Egretta intermedia* チュウサギ

旅鳥。千葉県内では夏鳥であるが、稀に記録されるだけである。4月下旬～11月にかけて8回の記録がある。13. Jun. 1976 4羽、18. Jul. 1976 2羽、23. Nov. 1976 2羽、13. Aug. 1982 2羽、29. Apr. 1983 1羽。

27. *Egretta garzetta* コサギ

留鳥。周年を通じて観察されるが、個体数は少ない。秋期に個体数が増す。25. Sep. 1976 17羽、20. Aug. 1978 44羽、8. Dec. 1981 3羽、25. Feb. 1981 2羽、13. May. 1984 6羽。

28. *Egretta sacra* クロサギ

次の2例が記録されている。16. Jun. 1987 黒色型1羽（幕張の浜、川島 洋私信）、1. Aug. 1987 羽数不明（幕張の浜、渡辺正之：ほおじろ No. 77）。

29. *Ardea cinerea* アオサギ

冬鳥。個体数は少ない。冬期に個体数が増す。7月～3月にかけて記録がある。27. Oct. 1980 6羽、30. Dec. 1981 7羽、15. Jan. 1983 6羽、24. Jul. 1983 1羽、27. Mar. 1988 1羽。

Anseriformes ガンカモ目

Anatidae ガンカモ科

30. *Anser albifrons* マガン

次の2例が記録されている。11. Mar. 1990 1羽（花見川河口、小出洋一：ほおじろ No. 109）、17. Mar. 1990 1羽（花見川河口、小出洋一：ほおじろ No. 109）。

31. *Cygnus cygnus* オオハクチョウ

次の1例が記録されている。4. Jan. 1977 6羽（観察者不明、読売新聞より）。

32. *Cygnus columbianus* コハクチョウ

1981年1月～2月にかけて埋立地の水たまりに成鳥1若鳥3が記録された。1. Jan. 1981、2. Jan. 1981、8. Jan. 1981、15. Jan. 1981（埋立地の水たまり：山崎 勉私信）。

33. *Tadorna ferruginea* アカツクシガモ

1980年3月以来、1984年まで毎年冬期に1~12羽が観察された。16. Mar. 1980 ♀1羽（海上、飯島滋哉：千葉支部報 No. 72、17. Nov. 1981 12羽、5. May. 1982 3羽、17. Oct. 1982 1羽、1. Dec. 1984 1羽（野崎 正 私信、浅野俊雄・高橋修：ほおじろ No. 45）。

34. *Anas platyrhynchos* マガモ

冬鳥。主に埋立地の水たまりに飛来するが、数は少ない。31. Aug. 1980 3羽、26. Apr. 1983 ♂2羽、23. Oct. 1983 9羽、20. Jan. 1985 ♂5羽、24. Feb. 1985 ♂1羽♀1羽。

35. *Anas poecilorhyncha* カルガモ

留鳥。埋立地の水たまりで繁殖している。埋立地の開発により1990年以降、急激に減っている。28. Jul. 1976 112羽、19. Apr. 1983 成鳥4羽雛5羽、24. Feb. 1985 95羽、29. Apr. 1987 13羽、23. Nov. 1988 13羽。

36. *Anas crecca* コガモ

冬鳥。普通にみられ、個体数も少なくない。9~5月にかけて越冬する。毎年冬期飛来するが、埋立地の水たまりの消失によって最近では記録数が少なくなっている。海上に姿を表すこともある。1. Jan. 1983 21羽、10. Oct. 1985 25羽、26. Jul. 1987 2羽、24. Nov. 1987 193羽、23. May. 1988 2羽、8. Mar. 1994 1羽（花見川河口）。

37. *Anas formosa* トモエガモ

次の2例が知られる。14. Jan. 1979 ♀1羽、1. Jan. 1985 ♀1羽。

38. *Anas falcata* ヨシガモ

稀な冬鳥。次の2例が知られる。17. Oct. 1976 ♂1羽、18. Oct. 1987 ♀1羽。

39. *Anas strepera* オカヨシガモ

1987年から1988年にかけて埋立地では少数が繁殖した。海岸では普通である。千葉市では稀な冬鳥として飛来していたが、1980年に初めて記録され、その後年々飛来数が増加している。埋立地の水たまり以外にも海上、花見川河口でもよく見られる。15. Jun. 1980 ♂1羽、24. Nov. 1987 ♂15羽♀13羽、15. Jan. 1988 ♂34羽♀25羽、23. Jul. 1988 ♂1羽♀1羽若鳥3羽。1987年には、本州初の繁殖も記録されている。4. Jun. 1987 ♂2羽♀1羽雛11羽（古川流雄 私信）。

40. *Anas penelope* ヒドリガモ

冬鳥。個体数は少ない。冬鳥として9月中旬~

5月上旬までに、埋立地の水たまり、海上、花見川河口で記録されている。5. May. 1978、15. Sep. 1981 1羽、29. Nov. 1985 ♂66羽♀67羽、22. Feb. 1987 ♂43羽♀48羽、23. Dec. 1990 ♂95羽♀95羽。

41. *Anas americana* アメリカヒドリ

8. Jan. 1981 ♂1羽♀1羽、10. Nov. 1995 ♂1羽、1~2. Feb. 1996 ♂1羽、13. Dec. 1996 ♂1羽などのほか次の報告がある。ただし、本種とヒドリガモとの交雑個体も割合と多くみられている。したがって、交雑個体の可能性のある記録もある。25. Oct. 1981 ♂1羽（木村紀久：ほおじろ No. 9）、25. Nov. 1984 ♂1羽（江藤正行・川島雅子：ほおじろ No/9）、26. Apr. 1987 ♂1羽（花見川河口、ヒドリガモ約30羽とともに採食していた：鈴木康夫 私信）11. Feb. 1988 1羽（花見川河口、ヒドリガモ約30羽とともに採食していた：鈴木康夫 私信）、13. Nov. 1988 ♂1羽♀1羽（米持千里 私信）などの記録もある。

42. *Anas acuta* オナガガモ

冬鳥として9月中旬~5月上旬に記録されている。普通に見られる種類だが、近年飛来数は減少している。15. Sep. 1979、8. May. 1982 ♂1羽♀1羽、23. Dec. 1984 ♂135羽♀152羽、24. Feb. 1985 ♂87羽♀75羽、30. Oct. 1988 ♂3羽♀5羽。

43. *Anas querquedula* シマアジ

埋立地に多くの水たまりのあった1979年~1982年までは、毎年9月~10月と4月に記録されていた。27. Sep. 1979 ♀1羽、19. Oct. 1980 ♀1羽、29. Apr. 1981 ♀2羽、5. Sep. 1981 4羽、11. Apr. 1982 ♂1羽。1982年以降は次の2例が記録されただけである。19. Sep. 1985 2羽（堤達俊・山口浩平：ほおじろ No. 57）、23. Oct. 1993 エクリプス 1羽（豊砂埋立地の水たまり）。

44. *Anas clypeata* ハシビロガモ

冬鳥。9月上旬~5月上旬にかけて記録されている。埋立地の水たまりの消失によって近年記録数は減少している。29. Apr. 1976 約350羽、3. Sep. 1980、10. May. 1981、24. Nov. 1987 ♂17羽♀12羽、15. Jan. 1988 ♂3羽♀8羽。夏期に次の1例の記録がある。29. Jul. 1984 ♂1羽♀1羽。

45. *Aythya ferina* ホシハジロ

冬鳥。個体数は多くない。10月上旬~3月下旬にかけて記録されている。以前は数少ないカモだったが、1984年頃から増加し始め、今では海

上を中心に普通に見られる。4. Oct. 1981 ♂1羽、31. Mar. 1985 ♂1羽、23. Nov. 1988 ♂70羽 ♀23羽、24. Dec. 1989 ♂54羽 ♀98羽、18. Feb. 1990 ♂75羽 ♀100羽。

46. *Aythya valisineria* オオホシハジロ

次の3例が報告されている。3. Oct. 1987 1羽 (川井盛久：ほおじろ No. 80)、3. Mar. 1988 ♂1羽 (海上、古川流雄 私信)、5. Mar. 1988 ♂3羽 ♀1羽 (海上、長島 充 私信)。

47. *Aythya fuligula* キンクロハジロ

冬鳥。個体数は少ない。10月中旬～4月下旬にかけて記録があるが、2～3月頃、個体数が増す。29. Apr. 1980 ♂1羽 ♀1羽、18. Oct. 1981、20. Mar. 1984 ♂3羽 ♀5羽、22. Dec. 1985 ♂3羽 ♀10羽、1. Jan. 1986 ♂2羽。

48. *Aythya marila* スズガモ

冬鳥。9月～5月に、主に海上で記録される。2月～4月頃には数万羽の群れが見られる。年により越夏する個体もいる。7. Sep. 1980 ♂1羽、22. Mar. 1987 約3100羽、25. Dec. 1988 1282羽、22. Jul. 1989 ♂7羽 ♀1羽、27. May. 1990 ♂5羽 ♀3羽。

49. *Melanitta nigra* クロガモ

冬鳥として9月～6月に記録されているが、飛来数は少ない。29. Nov. 1981 ♀5羽、15. Sep. 1982 ♀2羽、17. Jun. 1984 ♀1羽、1. Jan. 1986 ♀1羽、21. Mar. 1989 ♂1羽 ♀1羽。

50. *Melanitta fusca* ビロードキンクロ

冬鳥として10月～5月に記録されているが、飛来数は少ない。28. Nov. 1981 ♀1羽、8. May. 1982 ♂1羽、23. Oct. ♂1羽、15. Jan. 1985 24羽、21. Mar. 1989 ♂4羽 ♀4羽。夏期にも記録がある。27. Jun. 1975 5羽 (百瀬邦和 私信)、30. Jun. 1975 6羽 (百瀬邦和 私信)、9. Jul. 1975 3羽 (百瀬邦和 私信)、15. Jul. 1979 ♀1羽。

51. *Clangula hyemalis* コオリガモ

1例が知られる。17. Dec. 1993 1羽 (幕張C浜沖海上で確認したが、茜浜沖を通過し三番瀬方向へ飛び去った)。

52. *Bucephala clangula* ホオジロガモ

11月～3月の観察記録がある。12. Feb. 1979 34羽、30. Mar. 1980 ♂1羽、8. Jan. 1981 ♀1羽、7. Nov. 1982 ♂2羽 ♀2羽、24. Dec. 1989 ♀2羽、19. Nov. 1991 ♀1羽 (15:30, 15分程、池の水面を泳ぎ飛び去る)。

53. *Mergus albellus* ミコアイサ

2例の観察記録がある。30. Dec. 1987 ♀1羽 (志村英雄・志村真澄 私信)。

54. *Mergus serrator* ウミアイサ

冬鳥。11月～3月に海上で観察されている。個体数は少ない。25. Feb. 1982 ♀1羽、3. Nov. 1983 ♂1羽 ♀3羽、20. Dec. 1987 ♀2羽、27. Mar. 1988 ♀2羽、23. Nov. 1988 8羽。

Falconiformes ワシタカ目

Accipitridae ワシタカ科

55. *Pandion haliaetus* ミサゴ

旅鳥。9月～11月に記録される。個体数は少なく単独で記録される。16. Nov. 1980 1羽、23. Oct. Jan. 1983 1羽、10. Oct. 1984 1羽、25. Oct. 1986 1羽、15. Sep. 1987 1羽。

56. *Milvus migrans* トビ

冬鳥として8月下旬～5月上旬に記録されているが少ない。3. May. 1983 1羽、21. Aug. 1983 1羽、1. Jan. 1984 5羽、31. Mar. 1985 2羽、25. Nov. 1990 8羽。

57. *Accipiter gentilis* オオタカ

稀にみられるだけである。次の1例のみ。21. Oct. 1984 若鳥1羽 (幕張の浜防砂林)。

58. *Buteo buteo* ノスリ

冬鳥として11月～3月に記録されるが、記録は少ない。30. Jan. 1977 1羽、30. Mar. 1978 1羽、8. Dec. 1981 1羽、1. Jan. 1984 1羽、24. Nov. 1986 1羽、1. Jan. 1995 1羽 (豊砂、上空通過)。

59. *Butastur indicus* サシバ

千葉県では夏鳥であるが、当地では稀。25. Apr. 1982 1羽、7. Apr. 1986 1羽 (石川 勉 私信) などのほか次の例が記録されている。8. May. 1982 (朝倉南海雄：ほおじろ No. 16)、29. Jul. 1987 1羽 (上空通過：古川流雄 私信)、20. Aug. 1987 1羽 (上空通過：古川流雄 私信)、21. Jun. 1989 1羽 (上空通過：米持千里 私信)。

60. *Circus cyaneus* ハイイロチュウヒ

冬鳥として11月～3月にヨシ原で記録されている。8. Dec. 1981 ♀1羽、2. Jan. 1984 ♀1羽、29. Nov. 1985 ♀1羽、21. Mar. 1988 ♀1羽、11. Feb. 1989 ♂1羽。

61. *Circus aeruginosus* チュウヒ

冬鳥として9月～4月に記録されている。埋立

地のヨシ原を畴としている。3. Nov. 1978 1羽、
25. Apr. 1982 1羽、15. Jan. 1983 5羽、24. Feb.
1985 2羽、24. Sep. 1989 1羽。

Falconidae ハヤブサ科

62. *Falco peregrinus* ハヤブサ

旅鳥。稀にみられるだけである。個体数は少ない。冬鳥として1980年～1984年の、9月～3月にかけて記録されている。27. Oct. 1980 1羽、20. Sep. 1981 1羽、19. Dec. 1982 1羽、27. Mar. 1983 1羽、4. Jan. 1984 1羽、19. Dec. 1996 (メッセ駐車場上空通過)。

63. *Falco columbarius* コチョウゲンボウ

冬鳥。10月～2月にかけて記録されているが、記録数は少ない。6. Dec. 1981 ♀1羽、20. Dec. 1981 ♀1羽、30. Oct. 1983 1羽、23. Nov. 1983 ♀1羽、23. Feb. 1986 ♀1羽。

64. *Falco tinnunculus* チョウゲンボウ

留鳥。周年を通じて観察されている。秋～春にかけて普通にみられるが、夏期にも記録がある。30. Mar. 1978 2羽、9. May. 1982 1羽、15. Jan. 1983 10羽、29. Jul. 1984 1羽、28. Oct. 1990 2羽。

Galliformes キジ目

Phasianidae キジ科

65. *Coturnix coturnix* ウズラ

稀にみられる。次の2例のみ。23. Nov. 1983 1羽 (現在のマリスタジアム付近のヨシ原で)、1. Jan. 1985 1羽 (埋立地のヨシ原で)。飼鳥が籠抜けすることもあるので、注意を要する。

66. *Bambusicola thoracica* コジユケイ

留鳥。次の4例のみ。いずれも幕張の浜の防砂林で記録されている。目視されにくい種であるので、記録数は少ない。おそらく留鳥として生息していると思われる。24. May. 1987 1羽、29. Apr. 1989 声、21. Jun. 1989 声、23. Sep. 1990 3羽。

67. *Phasianus colchicus* キジ

留鳥。1992年の初認以降、観察されるようになった。26. Apr. 1992 1羽、24. Apr. 1994 1羽、15. May. 1995 2羽、28. Apr. 1996 1羽、19. May. 1996 1羽。

Gruiformes ツル目

Rallidae クイナ科

68. *Porzana fusca* ヒクイナ

旅鳥。千葉県内では夏鳥であるが、次の1例のみ。31. Oct. 1976 死体1 (県営住宅脇)。

69. *Gallinula chloropus* バン

夏鳥として4月～9月に普通に見られ、繁殖もしている。27. Sep. 1979、11. Apr. 1982、26. Aug. 1985 約26羽、23. May. 1988 2羽、4. Jun. 1989 成鳥1羽雛2羽。

70. *Fulica atra* オオバン

埋立地の水たまりで1980年より繁殖するようになったが1990年以降の記録はない。周年生息が記録されている。15. Jun. 1980 1羽、20. Sep. 1981 成鳥1羽若鳥1羽、19. Oct. 1986 18羽、22. Feb. 1987 1羽、24. Apr. 1988 5羽。

Charadriiformes チドリ目

Rostratulidae タマシギ科

71. *Rostratula benghalensis* タマシギ

次の5例のみだが、1976年・1978年には繁殖が記録されている。22. May. 1976 4羽、23. May. 1976 4羽、15. Aug. 1978 ♂1羽♀2羽、25. May. 1980 1羽、27. Jul. 1980 ♂1羽♀1羽。ほかに次の1例が記録されている。15. Sep. 1977 1羽 (千葉支部報 No. 47)。

Haematopodidae ミヤコドリ科

72. *Haematopus ostralegus* ミヤコドリ

次の3例が記録されている。23. Nov. 1985 羽数不明 (内田俊夫：ほおじろ No. 57)、17. Feb. 1987 3羽 (幕張の浜、歩いていた：篠田 豊 私信)、4. Feb. 1988 1羽 (幕張の浜、歩いていた：古川流雄 私信)。

Charadriidae チドリ科

73. *Charadrius hiaticula* ハジロコチドリ

稀な旅鳥。31. Aug. 1980 夏羽1羽、5. Oct.～24. Oct. 1994 (メッセ駐車場)。ほかに次の1例が記録されている。12. Aug. 1979 1羽 (志村英雄・志村真澄：千葉支部報 No. 67)。

74. *Charadrius dubius* コチドリ

夏鳥。3月下旬～10月下旬にかけてみられる。埋立地内で繁殖も記録されているが、繁殖個体数は減少している。12. Sep. 1976 5羽、16. May. 1982 2羽、28. Oct. 1984、28. Jul. 1985 21羽、22. Aug. 1987 2羽。

75. *Charadrius alexandrinus* シロチドリ

周年みられる。繁殖するが、春期・夏期は個体数が増加する。埋立地内で普通に繁殖している。28. Aug. 1976 431羽、29. Apr. 1982 474羽、27. Feb. 1983 14羽、10. Oct. 1985 11羽、24. Dec. 1989 8羽。

76. *Charadrius mongolus* メダイチドリ

千葉市内では旅鳥であるが、春と秋に記録される。1月に記録されたこともある。近年、記録数が減っている。18. Jul. 1976 56羽、15. Jan. 1978、20. Apr. 1980、13. Aug. 1982 16羽、23. Oct. 1983 1羽。

77. *Charadrius leschenaultii* オオメダイチドリ

1例がしられる。11. Aug. 1993 成鳥冬羽1羽（メッセ駐車場で休息していた）。

78. *Pluvialis dominica* ムナグロ

旅鳥。春と秋に記録されるが、秋の方が記録が多い。1986年以降の記録がない。28. May. 1976 2羽、29. Apr. 1981 1羽、4. Oct. 1981 2羽、13. Aug. 1982 3羽、12. Sep. 1985 15羽。

79. *Pluvialis squatarola* ダイゼン

6、7月を除き毎月記録がある。主に花見川河口の干潟・海岸で見られている。18. Dec. 1983 4羽、13. May. 1984 14羽、10. Oct. 1985 2羽、29. Aug. 1986 163羽、18. Feb. 1990 1羽、31. Aug. 1991 538羽（豊砂埋立地で休息していた）。

80. *Microsarcops cinereus* ケリ

旅鳥。次の記録のみ。10. Oct. 1985 1羽。ほかに1例が報告されている。24. Jun. 1979 1羽（朝倉南海雄：千葉支部報 No. 63）。

81. *Vanellus vanellus* タゲリ

千葉県内では冬鳥であるが、調査地では次の例（同一個体）のみが知られる。15. Sep. 1979 亜成鳥1、16. Sep. 1979 亜成鳥1羽。ほかに次の5例が報告されているが、1979年の記録は全て同一個体である。19. Aug. 1979 1羽（志村英雄・志村真澄：千葉支部報 No. 67）、10. Sep. 1979 1羽（志村英雄・志村真澄：千葉支部報 No. 67）、16. Sep. 1979 1羽（朝倉南海雄：千葉支部報 No. 66）8. Nov. 1983（野崎 正私信）、20. Oct. 1985 1羽（千葉大学ガラパゴス：ほおじろ No. 56）。

Scolopacidae シギ科

82. *Arenaria interpres* キョウジヨシギ

旅鳥。3月～9月にかけて記録がある。通常は春期と秋期に当地を訪れる旅鳥である。13. Jun. 1976 1羽、15. Sep. 1979 5羽、13. Aug. 1982 46羽、12. May. 1985 80羽、27. Mar. 1988 1羽。

83. *Calidris mauri* ヒメハマシギ

1987～88年の越冬期間にみられていた例のみ。31. Dec. 1987 2羽（幕張の浜）。ほかに次の1例が報告されている。17. Feb. 1988（幕張の浜、古川流雄 私信）。1987年10月から1988年5月3日に船橋、谷津干潟、幕張の海岸で観察されていた。（桑原・石川 1989）

84. *Calidris ruficollis* トウネン

旅鳥。春と秋に記録される。数はあまり多くない。28. Jul. 1976 1羽、15. Sep. 1979 9羽、16. May. 1982 1羽、24. Apr. 1983、23. Nov. 1988 1羽。

85. *Calidris minuta* ニシトウネン

旅鳥。15. Nov. 1996 1st.W 1羽（メッセ駐車場にハマシギ2,070羽の群れの中で休息していた）、8. Dec. 1996 1st.W 1羽（メッセ駐車場、同時にシロチドリ40羽、ハマシギ3羽が休息していた）、17. Dec. 1996 1st.W 2羽（メッセ駐車場、同時にシロチドリ176羽、ハマシギ702羽が休息していた）、22. Dec. 1996 1st.W 1羽（メッセ駐車場、同時にシロチドリ168羽、ハマシギ1,967羽、メダイチドリ3羽、トウネン、ミユビシギ1羽が休息していた。同日、谷津干潟でもニシトウネン2個体がみられている）。

86. *Calidris subminuta* ヒバリシギ

8月～9月に記録される。数は少ない。15. Aug. 1978、27. Sep. 1979 3羽、3. Sep. 1980 2羽、13. Sep. 1981 2羽、5. Aug. 1985 1羽。

87. *Calidris temminckii* オジロトウネン

秋期に記録される。12月～1月の記録もある。数はごく少なく、1987年以降の記録はない。3. Sep. 1980 2羽、21. Dec. 1980 1羽、10. Oct. 1984 2羽、13. Jan. 1985 1羽、23. Sep. 1986 2羽。

88. *Calidris bairdii* ヒメウズラシギ

1例のみ。20. Aug. 1978 1羽（シギ・チドリ類がよくみられていた水たまりで）。

89. *Calidris melanotos* アメリカウズラシギ

埋立地の水たまりで記録されている。15. Aug. 1978 1羽、26. Sep. 1979 1羽、27. Sep. 1979 1羽。ほかに次の3例が報告されている。23. Sep. 1979 1羽（志村英雄・志村真澄：千葉支部報 No. 56）。

67)、21. Aug. 1980 1羽(志村英雄:千葉支部報 No. 78)、2. Sep. 1987 1羽(古川流雄 私信)。

90. *Calidris acuminata* ウズラシギ

4月と8月~9月に記録がある。数は少ない。29. Apr. 1979 1羽、27. Sep. 1979 1羽、5. Sep. 1981 3羽、25. Apr. 1982 2羽、6. Aug. 1982 1羽、2. Nov. 1994 冬羽1羽。

91. *Calidris alpina* ハマシギ

毎月記録があるが、冬期・春期は数が多い。花見川河口干潟・海岸を中心に普通に見られる。メッセ駐車場で群れで休息することもある(桑原・箕輪1995)。22. Feb. 1976 20,000羽以上、15. Sep. 1979 2羽、29. Apr. 1983 524羽、19. Jun. 1983 2羽、23. Nov. 1988 191羽。

92. *Calidris ferruginea* サルハマシギ

旅鳥。海岸では稀にみられる。15. Sep. 1980 2羽(J)、9. May. 1982 1羽(夏羽)などのほかに次の例が報告されている。14. May. 1978 冬羽(亀谷辰朗:千葉支部報 No. 51)。

93. *Calidris canutus* コオバシギ

埋立地の水たまりで次の例がある。29. Apr. 1978 1羽、17. Sep. 1980 1羽、15. Sep. 1980 2羽、5. Sep. 1981 2羽。ほかに次の1例が報告されている。10. Sep. 1979 1羽(志村英雄・志村真澄:千葉支部報 No. 67)。

94. *Calidris tenuirostris* オバシギ

春と秋に記録されるが、数はごく少ない。20. Aug. 1978 5羽、10. Sep. 1981、9. May. 1982 1羽、28. Apr. 1987 2羽(夏羽)、24. Apr. 1988 33羽。

95. *Crocethia alba* ミユビシギ

以前は稀な鳥だったが、1982年以降記録が増えている。主として8月~5月にかけて主に人工海浜で見られる。幕張C浜で越冬し、駐車場などでも休息する(桑原・箕輪 1995)。29. Apr. 1978 3羽、6. Aug. 1982 5羽、14. Sep. 1985 58羽、24. May. 1987 2羽、11. Feb. 1989 1羽。

96. *Eurynorhynchus pygmeus* ヘラシギ

極めて稀。1例のみ。12. Sep. 1985 J 1羽(埋立地の水たまりで)。

97. *Philomachus pugnax* エリマキシギ

埋立地の水たまりで、7月~9月に記録されている。数は少ない。15. Jul. 1979 ♂成鳥夏羽1羽、7. Sep. 1980 14羽、23. Sep. 1980 2羽、13. Aug. 1981 1羽、13. Sep. 1981 1羽。

98. *Limicola falcinellus* キリアイ

8月から9月に記録があるが、数はごく少ない。27. Sep. 1979 2羽、10. Sep. 1981 4羽、5. Sep. 1982 1羽、24. Aug. 1984 1羽、25. Aug. 1990 1羽。

99. *Tringa erythropus* ツルシギ

9月に記録されるが、数はごく少ない。25. Sep. 1976 1羽、15. Sep. 1979 1羽、14. Sep. 1980 4羽、6. Sep. 1981 1羽、12. Sep. 1985 1羽。

100. *Tringa totanus* アカアシシギ

次の1例のみ。6. Sep. 1981 冬羽2羽。

101. *Tringa stagnatilis* コアアシシギ

埋立地の水たまりで、8月~10月に記録されているが、数は少ない。20. Aug. 1978 3羽、27. Aug. 1980 2羽、5. Oct. 1980 2羽、23. Aug. 1981 1羽、15. Sep. 1981 1羽。

102. *Tringa nebularia* アオアシシギ

千葉市内では旅鳥である。7月下旬~10月に見られる。近くにある谷津干潟では春期も普通に見られるが、当地においては、春期の記録は1例だけである。15. Sep. 1979 17羽、27. Jul. 1980 2羽、31. Oct. 1982 2羽、21. Aug. 1983 2羽、12. May. 1985 1羽。

103. *Tringa glareola* タカブシギ

旅鳥として普通にみられていた。現在では、極く稀で個体数も少ない。埋立地の水たまりで、7月中旬~10月上旬に見られる。春期の記録は1981年の2例だけである。近縁種であるクサシギの千葉市での観察記録は少なく、当地での記録はない。10. Oct. 1976 3羽、29. Apr. 1981 2羽、4. May. 1981 1羽、26. Aug. 1985 5羽、14. Jul. 1987 1羽。

104. *Tringa brevipes* キアシシギ

旅鳥。春・秋の渡りの時期に飛来する。春より秋の記録が多い。個体数は少ない。4月下旬~10月上旬に記録があるが、通常は春と秋に当地を訪れる旅鳥である。24. Jun. 1979、13. Aug. 1982 110羽、24. Apr. 1983 4羽、25. Oct. 1986 2羽、24. May. 1987 21羽。近縁種のメリケンキアシシギ *T. incana* は当地では記録されていないが、隣接している茜浜で、5. May. 1986に1羽、20・26. May. 1990に2羽、3・4・19. May. 1991に2羽が観察されている(米持千里 私信)。

105. *Tringa hypoleucos* イソシギ

旅鳥。少ない。湿地や池の縁で小動物を採食する。周年見られるが、冬期は数が少なくな

る。19. Apr. 1981 2羽、10. Oct. 1985 4羽、28. Dec. 1986 3羽、23. Jul. 1988 17羽、18. Feb. 1990。

106. *Xenus cinereus* ソリハシシギ

8月中旬～9月中旬にかけて記録されているが、数は少ない。15. Nov. 1981 2羽、20. Sep. 1981 1羽、11. Sep. 1983 1羽、20. Aug. 1987 1羽、16. Aug. 1990 1羽。

107. *Limosa limosa* オグロシギ

9月～10月に記録があるが、記録数は少ない。1976年には6月～7月の記録がある。13. Jun. 1976 1羽、28. Aug. 1976 11羽、3. Oct. 1976 1羽、16. Sep. 1979、15. Sep. 1980 11羽、15. Sep. 1991 1羽（豊砂）。

108. *Limosa lapponica* オオソリハシシギ

春と秋に記録されるが、春の記録は少ない。16. Aug. 1978 1羽、15. Sep. 1979 3羽、10. Oct. 1985 2羽、29. Apr. 1986 3羽、23. Jul. 1988 1羽。

109. *Numenius arquata* ダイシャクシギ

極めて稀。2例のみ。19. Sep. 1981 1羽、8. Feb. 1995 1羽（幕張C浜で採食していた）。

110. *Numenius madagascariensis* ホウロクシギ

稀にみられるだけの旅鳥。3. Oct. 1976 1羽、21. Aug. 1983 1羽、10. Oct. 1985 1羽、25. Sep. 1988 1羽、22. Apr. 1990 2羽。ほかに次の1例が報告されている。23. Aug. 1981 1羽（志村英雄・志村真澄・中島寿賀子・深川正夫：ほおじろ No. 7）。

111. *Numenius phaeopus* チュウシャクシギ

旅鳥。春の渡りの時期にみられる。春と秋に見られるが、個体数は春の方が多。20. Jun. 1976 1羽、29. Apr. 1980 47羽、23. Nov. 1982 1羽、15. Sep. 1984 1羽、22. Apr. 1990 6羽。

112. *Scolopax rusticola* ヤマシギ

冬鳥。個体数は少ない。次の2例が報告されている。7. Mar. 1988 1羽（石川 勉 私信）、10. Feb. 1995（幕張西6丁目、夕方飛翔していた）。

113. *Gallinago gallinago* タシギ

旅鳥。埋立地の水たまりや花見川河口干潟で、8～10月に記録されている。千葉市内では冬鳥であるが、個体数は少なく1985年以降は記録がない。15. Aug. 1978 2羽、23. Sep. 1980 4羽、5. Sep. 1981 1羽、23. Oct. 1983 2羽、28. Oct. 1984 1羽。

114. *Gallinago hardwickii* オオジシギ

1例のみ。22. Oct. 1989 1羽（ヨシ原から飛び立つ）。

Recurvirostridae セイタカシギ科

115. *Himantopus himantopus* セイタカシギ

1979年～1982年の6月～9月に記録されている。1979年には繁殖も確認されている。10. Jun. 1979 ♂3羽♀3羽、17. Aug. 1980 2羽、15. Sep. 1980 1羽、15. Sep. 1981 1羽、18. Jul. 1982 3羽。

Phalaropodidae ヒレアシシギ科

116. *Phalaropus lobatus* アカエリヒレアシシギ

旅鳥。埋立地の水たまりに春と秋に記録されるが、1985年以降は記録がない。6. Jun. 1976 50羽、30. Sep. 1979 1羽、25. May. 1980 8羽、23. Aug. 1981 150羽以上、29. Apr. 1984 1羽。

Glareolidae ツバメチドリ科

117. *Glareola maldivarum* ツバメチドリ

5月と7月～9月にかけて記録がある。数は少ない。16. Sep. 1979 1羽、11. Aug. 1980 5羽、15. Sep. 1980 9羽、24. Jul. 1983 2羽、27. May. 1990 1羽。

Stercorariidae トウゾクカモメ科

118. *Stercorarius pomarinus* トウゾクカモメ

5月下旬～6月上旬と10月に沖を飛翔する姿が見られる。23. Oct. 1983 3羽、27. May. 1984 3羽、31. May. 1984 6羽、10. Jun. 1984 3羽、4. Jun. 1988 3羽。

119. *Stercorarius parasiticus* クロトウゾクカモメ

次の記録のみ。23. Oct. 1983 1羽（暗色型）、27. May. 1984 2羽（うち1羽は暗色型）、4. Jun. 1988 1羽」ほかに次の1例が報告されている。26. Sep. 1982 1羽（乾健樹：ほおじろ No. 21）。

120. *Stercorarius longicaudus* シロハラトウゾクカモメ

極めて稀。10. Jun. 1984 7羽。ほかに次の2例が報告されている。29. Sep. 1982（早稲田大学生物同好会：ほおじろ No. 19）、1. Jun. 1987 1羽（幕張の浜駐車場で休息、野崎正）。

Laridae カモメ科

121. *Larus ridibundus* ユリカモメ

冬鳥。7月下旬～4月下旬に記録されている。16. Mar. 1976 117羽、24. Jul. 1983 1羽、1. Jan.

1983 27羽、29. Apr. 1986 1羽、30. Oct. 1988 24羽、31. Aug. 1991 1羽。

122. *Larus argentatus* セグロカモメ

冬鳥。9月～6月に記録されている。2月～3月に数が多くなる。25. Feb. 1982 773羽、19. Jun. 1983 2羽、14. Sep. 1985 1羽、26. Sep. 1989 3羽、22. Apr. 1990 8羽。

123. *Larus schistisagus* オオセグロカモメ

1980年代は3例のみであるが、1995年以降の記録は多い。16. Mar. 1982 1羽、3. Jan. 1986 1羽、5. Jan. 1982 4羽（志村英雄：ほおじろ No. 11）、23. Feb. 1995 2羽成鳥（幕張C浜）、2. Mar. 1995 3羽、22. Mar. 1995 2羽（浜で採食している）、3. Apr. 1995 2羽（幕張C浜）。

124. *Larus hyperboreus* シロカモメ

21. Feb. 1993 2羽（幕張C浜）、24. Feb. 1993 成鳥1羽（幕張C浜）、11. Apr. 1993 成鳥1羽（幕張C浜）、28. Nov. 1993 1羽（幕張C浜）、29. Mar. 1995 1羽（花見川河口）。

125. *Larus canus* カモメ

旅鳥。1992年以前の記録はない。1993年以降稀にみられるようになった。21. Feb. 1993 2羽、28. Mar. 1993 2羽、24. Mar. 1994 3羽（花見川河口）、25. Mar. 1994（花見川河口）、3. Apr. 1995 4羽（幕張C浜）。

126. *Larus crassirostris* ウミネコ

旅鳥。2月を除き毎月記録があるが、冬期、個体数は少ない。15. Jan. 1978、16. Mar. 1982 2羽、3. Sep. 1983 349羽、28. Jun. 1987 99羽、24. Sep. 1989 2,552羽。

127. *Larus saundersi* ズグロカモメ

1例が報告されている。6. Jun. 1983 夏羽1羽（石川 勉 私信）。

128. *Larus tridactylus* ミツユビカモメ

次の3例のみ。23. Apr. 1975 1羽（竹田伸一私信）、30. Oct. 1983 3羽、29. Feb. 1992 冬羽1羽（若葉で保護、早川雅晴）。

129. *Sterna leucoptera* ハジロクロハラアジサシ

稀にみられる。8. Aug. 1976 成鳥夏羽1羽、28. Aug. 1976 成鳥夏羽1羽、20. Jul. 1980 4羽、11. Jul. 1983 2羽（石川 勉 私信）、16. Aug. 1990 1羽、17. Aug. 1990 1羽、27. Jun. 1991 J 1羽（豊砂）、24. Jul. 1991 J 1羽（打瀬）、21. Jul. 1994 2羽（桑原・箕輪ら 1995）などのほか次の例が報告されている。13. Jul. 1980 2羽（朝倉南海

雄：千葉支部報 No. 76）、19. Jul. 1980 1羽（朝倉南海雄：千葉支部報 No. 76）、20. Jul. 1980 5羽（朝倉南海雄：千葉支部報 No. 76）。

130. *Sterna hybrida* クロハラアジサシ

1例が記録されている。13～16. Jul. 1979 成鳥夏羽1羽（埋立地の水たまりで：竹田伸一私信）。

131. *Sterna caspia* オニアジサシ

1例が報告されている。8. May. 1982 1羽（朝倉南海雄：ほおじろ No. 16）。

132. *Sterna bergii* オオアジサシ

1例が報告されている。2. Sep. 1979 1羽（志村英雄・志村真澄：千葉支部報 No. 67）。

133. *Sterna hirundo* アジサシ

旅鳥。4月～10月にかけて記録がある。通常は春と秋に当地に立ち寄る。24. Apr. 1983 1羽、14. Sep. 1985 537羽、25. Oct. 1986 1羽、28. Jun. 1987 12羽、23. May. 1988 約109羽。

134. *Sterna dougallii* ベニアジサシ

31. Aug. 1991 冬羽1羽（美浜区豊砂駐車場、台風のため強風が吹いている中、コアジサシ2,743羽、アジサシ150羽の群れの中で休息している個体を観察した）。

135. *Sterna fuscata* セグロアジサシ

迷鳥。東京湾岸では低気圧に伴う強風により迷行した個体が極稀に保護される。当地では次の1例のみ。23. Aug. 1981 若鳥1羽（水たまりの縁で休息していた）。

136. *Sterna albifrons* コアジサシ

夏鳥。4月～9月にかけて見られる。埋立地で多数繁殖している（桑原 1995）。23. Apr. 1975 200羽以上（竹田伸一私信）、24. Jul. 1983 779羽、8. Apr. 1984、25. May. 1986 60羽、24. Sep. 1989 5羽、16. Aug. 1990 752羽。

Alcidae ウミスズメ科

137. *Brachyramphus marmoratus* マダラウミスズメ

極稀。2. Jan. 1982 冬羽2羽（幕張の浜沖海上、時々採食のため潜水する）などのほか次の1例が報告されている。4. Jan. 1982 2羽（朝倉南海雄：ほおじろ No. 11）。

138. *Synthliboramphus wumizusume* カンムリウミスズメ

1例が報告されている。2. Jun. 1989 7羽（岡村裕透：ほおじろ No. 103）。

Columbiformes ハト目

Columbidae ハト科

139. *Streptopelia orientalis* キジバト

以前は稀にしか見られなかったが、埋立地に樹木や建造物が増えるにつれて個体数が増加し、今では周年普通に見られる。冬期にも繁殖する。15. Apr. 1984、28. Jul. 1985 2羽、22. Feb. 1987、10. Oct. 1988、23. Dec. 1990。

Strigiformes フクロウ目

Strigidae フクロウ科

140. *Asio otus* トラフズク

本種は、夜行性のため報告された記録数は少ないが、人工海浜に沿って存在する防風用の植林地を冬期に罫として使っている。22. Feb. 1988 2羽（石川 勉 私信）、13. Mar. 1988 1羽、6. Nov. 1989 1羽（石川 勉 私信）、28. Dec. 1990 2羽以上などのほか次の例が報告されている。13. Mar. 1988 1羽（志村英雄：ほおじろ No. 85）。

141. *Asio flammeus* コミズク

旅鳥。千葉市内では稀であるが、冬鳥として普通にみられていた期間がある。現在では、極稀に通過するだけである。10月～3月に埋立地の草地で見られる。近年、草地の減少に伴い記録数も減ってきている。29. Nov. 1981 4羽、22. Dec. 1985 7羽、3. Jan. 1986 約10羽、19・21・28. Feb. 1987 1羽（幕張の浜：篠田 豊 私信）、13. Mar. 1988、29. Oct. 1989 1羽。

142. *Otus bakkamoena* オオコノハズク

次の例が報告されている。9. Nov. 1987 死体1（若葉、幕張北高校校庭、間宮三知：房絵の鳥 No. 166）、11・15・19. Jan. 1991 1羽（幕張の浜：米持千里 私信）。

143. *Strix uralensis* フクロウ

旅鳥。個体数は少なく稀にみられる。千葉市内では少数が繁殖するが、当地では人工海浜の防砂林で、次の2例が報告されているだけである。10. Dec. 1984 1羽（高橋修：ほおじろ No. 46）、16. Dec. 1984 1羽（鈴木雅志・高橋修・西田陽子：ほおじろ NO. 46）。

Apodiformes アマツバメ目

Apodidae アマツバメ科

144. *Apus pacificus* アマツバメ

旅鳥。上空を秋と春渡りの時期に通過する。春期の記録は1例のみ。13. Sep. 1981 1羽、28.

Sep. 1982 5羽、27. Mar. 1983 1羽、10. Oct. 1988 20～30羽、28. Oct. 1990 5羽。

Coraciiformes ブッポウソウ目

Alcedinidae カワセミ科

145. *Alcedo atthis* カワセミ

1例が報告されている。6. Jul. 1988 1羽（ヨシ原上空を飛翔し通過した：古川流雄・篠田 豊 私信）。

Piciformes キツツキ目

Picidae キツツキ科

146. *Jynx torquilla* アリスイ

旅鳥。稀にみられ、次の1例が報告されている。10. Feb. 1987 1羽（古川流雄 私信）。

147. *Dendrocopos kizuki* コゲラ

留鳥。周年を通じてみられる。シジュウカラの群れの中で観察されることも多い。次の1例が初認である。3. Aug. 1989 1羽（JR海浜幕張駅付近の道路脇の街路樹で）。

Passeriformes スズメ目

Alaudidae ヒバリ科

148. *Alauda arvensis* ヒバリ

留鳥。草地などに多く生息する。5. Jan. 1977、26. Mar. 1979、10. May. 1981、31. Jul. 1983、19. Oct. 1986。

Hirundinidae ツバメ科

149. *Riparia riparia* ショウドウツバメ

次の2例のみ。10. Oct. 1979 数十羽（ヨシ原上空を飛翔している）、3. Sep. 1982（野崎 正 私信）、24. Aug. 1983（野崎 正 私信）、23. Oct. 1983 2羽。

150. *Hirundo rustica* ツバメ

夏鳥。3月下旬～10月に普通に見られ、埋立地周辺の建造物に巣を造り、繁殖している。28. May. 1976 3羽、15. Jul. 1979、15. Sep. 1982 12羽、30. Oct. 1983 2羽、27. Mar. 1988 1羽。

Motacillidae セキレイ科

151. *Motacilla cinerea* キセキレイ

旅鳥。千葉県内では留鳥であるが、調査地では稀にみられる種である。次の1例のみ。3. Nov. 1983 1羽（花見川河口）。

152. *Motacilla alba* ハクセキレイ

留鳥。水辺周辺、公園造成地、道路などで普通にみられる。22. Feb. 1976 3羽、29. Apr. 1979、21. Jun. 1981、15. Sep. 1983 3羽、28. Dec. 1986、23. Dec. 1994 ホオジロハクセキレイ *M.a.leucopsis* 1羽。

153. *Motacilla grandis* セグロセキレイ

旅鳥。次の2例が報告されている。15. Jul. 1979 幼鳥2羽（志村英雄・志村真澄：千葉支部報 No. 67）、9. Jun. 1982 1羽（花見川河口、石川孝一：ほおじろ No. 16）。

154. *Anthus hodgsoni* ビンズイ

冬鳥。秋の渡りの時期には多いが、越冬期間の個体数は少ない。初認は1991年である。27. Jan. 1991 5羽。

155. *Anthus spinoletta* タヒバリ

冬鳥。10月～4月に普通にみられる。29. Apr. 1978、23. Oct. 1983、24. Feb. 1985、25. Dec. 1988、25. Nov. 1990。

Pycnonotidae ヒヨドリ科

156. *Hypsipetes amaurotis* ヒヨドリ

以前は冬にしか見られなかったが、1980年代になり増加、今では周年普通にみられる。1982年には繁殖も確認された。春と秋の渡りの時期に一時的に個体数が増す。15. Jan. 1978、16. Jun. 1982 1巢、31. Mar. 1985、24. Aug. 1988、25. Nov. 1990。

Laniidae モズ科

157. *Lanius bucephalus* モズ

留鳥。以前は秋～春に見られる冬鳥だったが、1986年からは、周年を通じて普通にみられるようになった。夏期の5～7月に出現頻度が少なくなる。周年見られるようになった。15. Jan. 1978、29. Nov. 1981、23. Sep. 1984、15. Jun. 1986、16. Mar. 1988。

Muscicapidae ヒタキ科

158. *Tarsiger cyanurus* ルリヒタキ

旅鳥。千葉県内では冬鳥であるが、次の3例が報告されている。23. Nov. 1988、30. Nov. 1989 ♂J（若葉 千葉県総合教育センターで衝突死：CBMZB-1193）、19. Feb. 1995 ♀1羽（幕張の浜防砂林）。

159. *Phoenicurus aureus* ジョウビタキ

冬鳥。1982年より当地で見られるようになり、現在は冬期普通にみられる。例年10月初旬頃飛来し、翌年3月まで普通にみられる。春と秋の渡りの時期に個体数が増加する。2. Jan. 1982 ♀1羽、30. Oct. 1983 ♂1羽、29. Nov. 1985 ♂1羽、31. Dec. 1987 ♀1羽、26. Feb. 1989 ♀1羽。

160. *Saxicola torquata* ノビタキ

旅鳥。千葉県内では平野部で秋の渡りの時期にみられる種である。9月中旬～11月上旬にみられたが1990年以降少ない。16. Sep. 1979 1羽、2. Oct. 1983 約20羽、3. Nov. 1984 4羽、28. Oct. 1990 2羽。

161. *Monticola solitarius* イソヒヨドリ

冬鳥。9月～4月にかけて、海岸や花見川・浜田川の河口部で見られる。2. Jan. 1982 ♀1羽、30. Oct. 1983 ♂1羽 ♀1羽、14. Sep. 1985 ♀1羽、21. Mar. 1988 ♀1羽、22. Apr. 1990 ♀1羽。

162. *Turdus chrysolus* アカハラ

ガラスなどに衝突する個体がいる。総合教育センターなどで拾得されている。24. Dec. 1995 1羽、28. Nov. 1996 1羽。

163. *Turdus pallidus* シロハラ

冬鳥。個体数は多くない。ガラスなどに衝突する個体がいる。24. Dec. 1989 1羽、25. Dec. 1990 1羽。

164. *Turdus naumanni* ツグミ

冬鳥。例年11月上旬頃飛来する。越冬し翌年5月まで普通にみられる。11月下旬頃、一時的に個体数が増加する。5. Jan. 1977、5. May. 1981 2羽、3. Nov. 1984 1羽、23. Feb. 1986、21. Mar. 1988。

165. *Cettia diphone* ウグイス

冬鳥。10月～4月に埋立地の植栽で記録される。14. Jan. 1979、25. Apr. 1982、22. Dec. 1985、26. Feb. 1989、28. Oct. 1990。

166. *Megalurus pryeri* オオセッカ

次の例のみ。いずれも人工海浜近くの草地で記録された。1. Jan. 1983 2羽、6. Jan. 1983 1羽、27. Feb. 1983 1羽などのほか次の1例の報告がある。4. Jan. 1983 2羽（栗崎鋼：ほおじろ No. 22）。

167. *Acrocephalus bistrigiceps* コヨシキリ

1992以前は旅鳥であったが、海岸部の埋立地

で繁殖する。さえずる♂がヨシ原で記録される。14. Jul. 1987 ♂成鳥1羽、26. Aug. 1987 ♂成鳥1羽、27. May. 1990 ♂成鳥1羽、2. Jun. 1993 4羽（豊砂埋立地のヨシ原でさえずる）。次の2例も報告されている。18. Aug. 1986（坂口敦：ほおじろ No. 65）、29. Jul. 1987 ♂1羽（さえずる：古川流雄 私信）。

168. *Acrocephalus arundinaceus* オオヨシキリ

夏鳥。1979年以降、4月下旬～9月中旬にヨシ原で普通に見られ、繁殖している。1985年以降、ヨシ原の減少のため個体数は減少している。15. Sep. 1981 1羽、26. Jun. 1983、12. May. 1985、20. Aug. 1987、22. Apr. 1990。

169. *Regulus regulus* キクイタダキ

冬鳥。次の1例のみ。幕張南高校脇のクロマツ松植林で記録された。25. Nov. 1990 2羽。

170. *Cisticola juncidis* セッカ

留鳥。草地では多数が生息している。冬期の観察記録は少ない。例年、普通に見られているが、草地で繁殖しているため、1990年以降個体数が減少した。5. Jan. 1977、29. Mar. 1978、12. Jun. 1979、5. Sep. 1981、20. Nov. 1983。

171. *Ficedula narcissina* キビタキ

旅鳥。9～10月の秋の渡りの時期に通過する。秋に多く、春の渡りの時期の記録はない。次の2例のみ。17. Oct. 1982 ♀1羽、22. Oct. 1989 ♀1羽。

172. *Terpsiphone atrocaudata* サンコウチョウ

旅鳥。千葉県内では夏鳥であるが、渡りの時期に稀に記録されるだけである。次の1例が報告されている。18. Aug. 1987 ♂1羽（JR海浜幕張駅付近、飛翔しながら通過した：古川流雄 私信）。

Remizidae ツリスガラ科

173. *Remiz pendulinus* ツリスガラ

冬鳥。11. Dec. 1994 声数羽（豊砂ヨシ原で）。

Paridae シジュウカラ科

174. *Parus major* シジュウカラ

留鳥。周年を通じて普通に観察される。1989年より記録されるようになった。1990年には巣立ちした直後の幼鳥も確認されている。4. Jun. 1989 1羽、26. Nov. 1989 2羽、28. Oct. 1990 1羽。他に1990年には7月中に数回観察されてい

る。

Zosteropidae メジロ科

175. *Zosterops japonicus* メジロ

1988年以後は1例しか記録がなかったが、1988年以前は10月～4月に植栽地でよく記録されるようになった。個体数は繁殖期に少なく、冬期に増加する。6. Feb. 1976 2羽、23. Nov. 1988 1羽、22. Jan. 1989 1羽、22. Oct. 1989 4羽、22. Jun. 1990。

Emberizidae ホオジロ科

176. *Emberiza cioides* ホオジロ

1982年以降、10月～3月に草地でよく見られるようになった。1982年以前は1例しか記録がなかった。冬期に個体数が増すが1989年には6月にも記録されている。1990年以降減少した。12. Feb. 1979、18. Dec. 1983、31. Mar. 1985、18. Oct. 1987、4. Jun. 1989 ♂2羽。

177. *Emberiza fucata* ホオアカ

旅鳥。極く稀にみられる。14. Jan. 1979 3羽、15. Jan. 1979 2羽、1. Jan. 1981、9. Nov. 1982 2羽（野崎正）、22. Apr. 1984 ♂夏羽1羽。

178. *Emberiza rustica* カシラダカ

冬鳥。千葉県内では、春と秋の渡りの時期に通過する旅鳥であるが、調査地では稀である。千葉県内でも、1970年以前は越冬個体数も少なくなかったが、1990年以降越冬する個体数は減少した。当地では2例が報告されているだけである。11. Jan. 1986（埋立地の草地：宮崎武興 私信）、28. Nov. 1996 冬羽1羽（幕張の浜に隣接している防砂林で）。

179. *Emberiza spodocephala* アオジ

冬鳥。例年、10月～4月にヨシ原や植栽林で記録される。渡りの頃に一時的に個体数が増加する。24. Dec. 1983、30. Nov. 1986、22. Feb. 1987、24. Apr. 1988、22. Oct. 1989。

180. *Emberiza schoeniclus* オオジュリン

冬鳥。千葉県内では個体数の多い種であるが、埋立地の草地の減少により激減している。10月下旬～4月下旬にヨシ原で普通に見られる。5. Jan. 1977、21. Dec. 1980、22. Apr. 1984、23. Mar. 1986、22. Oct. 1989。

Fringillidae アトリ科

181. *Carduelis sinica* カワラヒワ

留鳥。周年を通じて普通にみられ、個体数も多い。繁殖期が終わる7月中旬頃から個体数が増加し、数十羽の群れがみられる。また、旅鳥や冬鳥として飛来する個体も多く、その個体数は年により変動する。繁殖記録もある。30. Oct. 1977、12. Feb. 1979、28. Jun. 1981、21. Aug. 1983、22. Dec. 1985。

182. *Carduelis spinus* マヒワ

稀な冬鳥。年により個体数に差がある。千葉市内では、1991年、1993年、1996年に記録が多い。29. Mar. 1995 38羽（防砂林）、18. Nov. 1996 1羽（幕張メッセ駐車場上空通過）。

183. *Coccothraustes coccothraustes* シメ

冬鳥。千葉市内では普通にみられるが、当地では1例のみ。17. Nov. 1985 1羽（幕張の浜の防砂林）。

Ploceidae ハタオリドリ科

184. *Passer montanus* スズメ

留鳥。最も個体数が多い種である。夏～秋にかけて、数百～数千の群れがみられたことがあるが、1990年以降減少した。22. Feb. 1976、5. May. 1978、13. Aug. 1981、14. Oct. 1984、25. Dec. 1988、19. Dec. 1996 約800羽（花見川河口）。

Sturnidae ムクドリ科

185. *Sturnus cineraceus* ムクドリ

留鳥。個体数も多い。草地や緑地、公園などに多い。周年普通に見られる。5. Jan. 1977、6. Mar. 1980、16. May. 1982、24. Aug. 1984、24. Nov. 1987。

Corvidae カラス科

186. *Garrulus glandarius* カケス

次の1例のみ。26. Sep. 1979 1羽（現在のメッセ駐車場付近の水たまりのヨシ原から飛び立つ）。

187. *Cyanopica cyana* オナガ

5月～8月と3月、11月に記録がある。1985年以降に埋立地に進出し、1989年には衛生短期大学付近の街路樹で巣立ち直後の幼鳥も見られている。12. May. 1985 1羽、30. Nov. 1986、23. Jul. 1988 4羽、21. Mar. 1989 1羽、19. Aug. 1989 9羽。

188. *Corvus corone* ハシボソガラス

留鳥。ハシボソガラスより少なくなった。周年普通に見られる。21. Dec. 1980 2羽、15. Sep. 1983 11羽、23. Feb. 1986 5羽、24. Apr. 1988 16羽、24. Jun. 1990 21羽。

189. *Corvus macrorhynchos* ハシブトガラス

1981年以降埋立地に進出し、現在は周年普通に見られる。個体数はハシボソガラスに比べやや増加している。23. Dec. 1984 32羽、23. Aug. 1986 20羽、24. May. 1987 54羽、22. Oct. 1989 145羽、18. Feb. 1990 28羽。

幕張埋立地周辺で記録された外国産鳥類（外来種）

1. *Cygnus atratus* コクチョウ

稀に見られる。26. Aug. 1985 1羽（埋立地）、10. Oct. 1985 1羽（埋立地）、29. Nov. 1985 1羽（花見川河口）。

2. *Columba livia* ドバト

周年を通じて普通に見られる。

3. *Geopelia cuneata* ウスユキバト

1例が知られる。22. Sep. 1985 1羽。

4. *Melopsittacus undulatus* セキセイインコ

籠拔けが記録されるが、冬期は見られない。スズメの群れの中で観察されることがある。19. Sep. 1981 グリーン型1羽、30. Oct. 1983 1羽、26. Oct. 1984 1羽、3. Nov. 1984 ブルー型1羽、24. Jun. 1990 1羽。

5. *Amandava amandava* ベニスズメ

飼鳥。稀にみられる。10. Oct. 1979、27. Jul. 1980。

6. *Lonchura malacca* キンパラ

飼鳥。稀にみられる。29. Nov. 1981 1羽。

7. *Euplectes orix* キンランチョウ

籠拔け鳥が野性化した種である。23. Sep. 1984 ♂1羽。

7 謝 辞

本稿をまとめるにあたり、古川流雄、石川勉、亀谷辰朗、野崎 正、宮崎武興、長島 充、篠田 豊、早川雅晴、米持千里、川島 洋、川名興、鈴木康夫、浅子明の各氏には多くの情報を御教示いただいた。佐賀県庁の鈴木明、千葉県立中央博物館友の会の金田彦太郎、嶋田哲郎、斉藤映樹の各氏には観察資料を提供していただいた。日本鳥類保護連盟の箕輪義隆、山階鳥類

研究所の茂田良光、尾崎清明、百瀬邦和、千葉県立中央博物館友の会の井尻謹絵、千葉大学の山本浩伸、仁科研一、東邦大学野鳥の会、千葉県立幕張東高校の早川雅晴、千葉県立中央博物館の各氏には、観察記録を提供していただいた。さらに、石川県野鳥園の竹田伸一氏には観察記録の補足を、さらに千葉県立中央博物館友の会、千葉県野鳥の会、日本野鳥の会千葉県支部、水鳥研究会の会員の多くの方々の貴重な記録をも参考にさせていただいた。また、本稿を作成するにあたり加藤典子、横地留奈子、石黒夏美の各氏の協力を得た。ここに深く感謝の意を表したい。なお、この研究は平成8年度多摩川およびその流域の環境浄化に関する調査・試験研究助成(1995-05)号の一部である。

8 引用文献

- 青木正志・桑原和之. 1991. 舟田池周辺の鳥類(千葉県立中央博物館周辺鳥類目録その2). 千葉生物誌40: 27-36.
- 青木正志・和仁道大・原田 茂. 1992. 舟田池周辺・青葉の森・千城台野鳥観察園の鳥類調査, 千葉県自然誌資料調査会. 平成3年度標本資料収集動物・植物標本目録: 44-47.
- 東陽一・桑原和之・金井 裕. 1996. コアジサシ *Sterna albifrons* の営巣地の現状と保全策. *Strix* 14: 143-157.
- 千葉県. 1975. 千葉県産鳥類目録, 34pp. 千葉県環境部, 千葉.
- 千葉県都市部公園緑地課. 1993. 平成5年度事業概要, 76PP. 千葉県, 千葉.
- 石井政彦・大塚直樹・丸島和崇. 1994. 千葉市土気周辺の鳥類. 千葉生物誌43: 29-36.
- 蓮尾純子. 1986. 保護区の鳥たち. 行徳野鳥観察舎友の会編. よみがえれ新浜: 126-141.
- 石川 勉・桑原和之. 1984. 谷津干潟の鳥類とその保護. *Strix* 3: 90-98.
- 金井 裕・磯部清一. 1990. 東京湾岸におけるコアジサシ *Sterna albifrons* の繁殖コロニーの分布. *Strix* 9: 177-190.
- 桐原政志. 1989. 生態園での陸鳥変動の予測調査. 昭和63年度千葉県立中央博物館自然誌資料調査・収集事業報告書: 30-33.
- 桐原政志・青木正志・唐沢孝一. 1989. 野鳥観察を有効に行うために. 昭和63年度千葉県立中央博

物館自然誌資料調査・収集事業報告書: 184-185.

- 桐原政志・青木正志・桑原和之. 1989. 舟田池周辺の鳥類1982-1988年(千葉県立中央博物館周辺鳥類目録). 千葉生物誌39(1): 21-28.
- 桐原政志・唐沢孝一・岩本重治. 1988. 舟田池とその周辺の鳥類. 千葉県立中央博物館(仮称)設置に係わる基礎調査及び資料収集事業報告書(昭和62年度): 45-53.
- 桑原和之. 1990. 千葉県からのシロハラミズナギドリ類 *Pterodoroma* sp. の迷行例について. *Bull.JBBA* 5: 44-45.
- 桑原和之. 1995. 千葉市の鳥コアジサシ, 6pp. 千葉市環境衛生局環境部, 千葉.
- 桑原和之. 1996. 千葉市の鳥類2-海岸部におけるカモ・カモメ類の個体数変動と分布- 沼田 眞(編). 千葉市野生動物の生息状況及び生態系調査報告書, pp.467-481. 千葉市環境衛生局環境部.
- 桑原和之・石川 勉. 1989. ニシトウネンとヒメハマシギの越冬記録. *Jap.J.Ornithol.* 37: 196.
- 桑原和之・原田 茂・木幡冬樹・鈴木 明・青木正志・落合加代子. 1994. 千葉県立中央博物館鳥類目録. 千中博研報 特別号1: 213-32.
- 桑原和之・箕輪義隆・早川雅晴・木幡冬樹・嶋田哲郎. 1996. 千葉市の鳥類3-コアジサシの生態, 特にその繁殖ステージについて- 沼田 眞(編). 千葉市野生動物の生息状況及び生態系調査報告書, pp.483-504. 千葉市環境衛生局環境部.
- 桑原和之・和仁道大・落合加代子・原田 茂・綾富美子・石黒夏美. 1996. 千葉市の鳥類1-内陸部の鳥類相- 沼田 眞(編). 千葉市野生動物の生息状況及び生態系調査報告書, pp.425-465. 千葉市環境衛生局環境部.
- 箕輪義隆・桑原和之・田村 満. 1996. 小櫃川河口の鳥類目録1974-1995. 我孫子市鳥の博物館調査報告書 5: 84-114.
- 百瀬邦和・桑原和之. 1988. 小櫃川河口の鳥類. 千葉生物誌37: 80-96.
- 中沢玲子. 1979. シロチドリ抱卵行動, 特に雄雌の分担と地表温の影響について. 山階鳥類研究所研究報告11: 54-63.
- 日本鳥学会. 1974. 日本鳥類目録 改訂5版. 学研, 東京.

Niimi, N. 1979. A completely albinistic Little Tern *Sterna albifrons* chick. 山階鳥類研究所研究報告 11: 72-73.

9 要約

千葉市美浜区の幕張埋立地 (35°39'N, 140°03'E) は、1973年より始まった埋立事業により、造成された埋立地である。1996年現在みられるこの海岸線は、著しい環境の変化をとげてきた。本来、当地は潮干狩りやノリの養殖が盛んに行われていた遠浅の海であった。しかし、1960年代からおこなわれた東京湾の埋立の波及は、やがて当地にも及び、1973年より埋立事業が開始された。埋立には、おもにサンドパイプによって運搬された沖部海底の堆積土が利用され、1975年までは泥状の埋立地であり、人などは歩くことができないほどであった。1975年から土が乾燥し始め、埋立地に広大な裸地ができあがった。やがて、裸地のいたる所に水たまりができ、そこにカモ類やシギ・チドリ類をはじめとする水鳥が休息・採食のために飛来するようになった。その後、埋立地の乾燥化に共ない植物が進入した。1977年頃には埋立地一面は、低茎草原となった。さらに1979年頃よりヨシの群落が目立つようになり、セイタカアワダチソウを中心とした高茎草原が徐々に現れてきた。この間に鳥類の変遷も目立った。最初にヒバリ・セッカ・オオヨシキリといった草原性の陸鳥が繁殖するようになった。一方、埋立地の乾燥化や植物の進入が進むにつれて、水たまりや湿地だった地域は、次第に減少し、水鳥の個体数は減少していった。埋立事業は、1980年に完了し、現在は国際見本市である幕張メッセを中心とした幕張新都心計画に基づいて、幕張テクノガーデン・幕張タウンセンター・幕張ワールドビジネスガーデン・千葉マリスタジアム及び専門教育機関の集積などの計画が推進され、種々の建造物が造成されつつある。海岸には、人工海岸の幕張海岸や幕張C浜がある。幕張C浜は立ち入り禁止地域となっているため、現在でも水鳥が多く、この海岸は保護していく必要がある。

この調査地では1975年から1996年の22年間に189種の鳥類が記録された。鳥類相の特徴として、干潟や湿地で生活する種が多く、特にチドリ目とガンカモ目の2目で全記録種の半分近くを

占めている。なかでも、チドリ亜目、いわゆるシギ・チドリ類の種数は特に多く、46種が記録されている。しかし、湿地の減少にともないタマシギ・タカブシギやヨシゴイなどの種が減少した。ウズラシギ・ヒバリシギやオジロトウネンなどの種も現在では稀であり、記録も少なくなった。タマシギは、1974~76年には繁殖していたが、1977年には観察例のみになり1978年以降は観察例も稀になったが、本種は千葉市内でも稀な種となった。

海や、埋立地内の水たまり・花見川・浜田川などの淡水域・汽水域といった多様な水域が存在するため、いわゆる海ガモから淡水ガモまで広く記録されている。特に、乾燥した広大な草原の中に水たまりが点在していた1980年~1984年の5年間、国内では珍しいアカツクシガモが毎年渡来し最大数12羽まで達したことは特筆される。さらに、アビ目・カイツブリ目・ミズナギドリ目といった鳥たちの記録数・個体数が多いことも幕張埋立地の特徴である。ヨシ原に冬鳥として飛来する猛禽類も多く、チュウヒやチョウゲンボウ・コミズクなどの個体数が多かった。ただし、シギ・チドリ類、カモ類や猛禽類などの種も湿地や草地の減少に伴い、1990年以降観察例も減少している。

調査地を越冬地か渡りの途中の休息地として利用している種が多いことのほかに、低地の埋立地で繁殖する鳥類が多いことも大きな特徴であった。繁殖が確認された種は、カイツブリ・カルガモ・オカヨシガモ・バン・オオバン・タマシギ・コチドリ・シロチドリ・コアジサシ・セイタカシギ・ヒバリ・ツバメ・ヒヨドリ・オオヨシキリ・セッカ・スズメの16種である。繁殖種の中で特筆すべき営巣例は、セイタカシギとオカヨシガモである。湿地の減少とともに埋立地の裸地が地上営巣性の種の繁殖地となり、コアジサシとシロチドリの繁殖地となり、この2種の個体数は埋立地でも特に多かった。ただし、近年の市街地化に伴う裸地の減少から、地上営巣する種の繁殖地は減少しているので、早急に保護の対策が必要である。

表1 千葉市・美浜区埋立地鳥類目録(1)

Gaviiformes	アビ目		Ardeidae	サギ科	
Gaviidae	アビ科		22. <i>Ixobrychus sinensis</i>	ヨシゴイ	(S)
1. <i>Gaviastellata</i>	アビ	(M)	23. <i>Nycticorax nycticorax</i>	ゴイサギ	(R)
2. <i>Gavia arctica</i>	オオハム	(M)	24. <i>Bubulcus ibis</i>	アマサギ	(M)
3. <i>Gaviapacifica</i>	シロエリオオハム	(M)	25. <i>Egretta alba</i>	ダイサギ	(R)
			26. <i>Egretta intermedia</i>	チュウサギ	(M)
Podicipediformes	カイツブリ目		27. <i>Egretta garzetta</i>	コサギ	(R)
Podicipedidae	カイツブリ科		28. <i>Egretta sacra</i>	クロサギ	(M)
4. <i>Podiceps ruficollis</i>	カイツブリ	(S)	29. <i>Ardeacinerea</i>	アオサギ	(R)
5. <i>Podiceps nigricollis</i>	ハジロカイツブリ	(W)			
6. <i>Podiceps auritus</i>	ミミカイツブリ	(M)	Anseriformes	ガンカモ目	
7. <i>Podiceps grisegena</i>	アカエリカイツブリ	(M)	Anatidae	ガンカモ科	
8. <i>Podiceps cristatus</i>	カンムリカイツブリ	(W)	30. <i>Anser albifrons</i>	マガン	(M)
			31. <i>Cygnus cygnus</i>	オオハクチョウ	(M)
Procellariiformes	ミズナギドリ目		32. <i>Cygnus columbianus</i>	コハクチョウ	(M)
Diomedidae	アホウドリ科		33. <i>Tadorna ferruginea</i>	アカツクシガモ	(M)
9. <i>Diomedea immutabilis</i>	コアホウドリ	(M)	34. <i>Anas platyrhynchos</i>	マガモ	(W)
Procellariidae	ミズナギドリ科		35. <i>Anas poecilorhynchos</i>	カルガモ	(R)
10. <i>Bulweria bulwerii</i>	アナドリ	(M)	36. <i>Anas crecca</i>	コガモ	(W)
11. <i>Calonectris leucomelas</i>	オオミズナギドリ	(M)	37. <i>Anas formosa</i>	トモエガモ	(M)
12. <i>Puffinus carneipes</i>	アカアシミズナギドリ	(M)	38. <i>Anas falcata</i>	ヨシガモ	(M)
13. <i>Puffinus griseus</i>	ハイイロミズナギドリ	(M)	39. <i>Anas strepera</i>	オカヨシガモ	(W)
14. <i>Puffinus tenuirostris</i>	ハシボソミズナギドリ	(M)	40. <i>Anas penelope</i>	ヒドリガモ	(W)
Hydrobatidae	ウミツバメ科		41. <i>Anas americana</i>	アメリカヒドリ	(W)
15. <i>Oceanodroma furcata</i>	ハイイロウミツバメ	(M)	42. <i>Anas acuta</i>	オナガガモ	(W)
16. <i>Oceanodroma monorhis</i>	ヒメクロウミツバメ	(M)	43. <i>Anas querquedula</i>	シマアジ	(M)
17. <i>Oceanodroma tristrami</i>	オーストンウミツバメ	(M)	44. <i>Anas clypeata</i>	ハシビロガモ	(W)
			45. <i>Aythya ferina</i>	ホシハジロ	(W)
Pelecaniformes	ペリカン目		46. <i>Aythya valisineria</i>	オオホシハジロ	(M)
Phalacrocoracidae	ウ科		47. <i>Aythya fuligula</i>	キンクロハジロ	(W)
18. <i>Phalacrocorax carbo</i>	カワウ	(R)	48. <i>Aythya marila</i>	スズガモ	(W)
19. <i>Phalacrocorax capillatus</i>	ウミウ	(M)	49. <i>Melanitta nigra</i>	クロガモ	(W)
20. <i>Phalacrocorax pelegicus</i>	ヒメウ	(M)	50. <i>Melanitta fusca</i>	ピロードキンクロ	(W)
Fregatidae	ゲンカンドリ科		51. <i>Clangula hyemalis</i>	コオリガモ	(M)
21. <i>Fregata ariel</i>	コゲンカンドリ	(M)	52. <i>Bucephala clangula</i>	ホオジロガモ	(W)
			53. <i>Mergus albellus</i>	ミコアイサ	(M)
Ciconiiformes	コウノトリ目		54. <i>Mergus serrator</i>	ウミアイサ	(W)

学名と和名の次に渡りの区別を記載した。留鳥 (R)、夏鳥 (S)、冬鳥 (W)、旅鳥 (M) に分けた。観察回数が少ない種でも千葉市付近で繁殖する種は留鳥や夏鳥とした。また、飼い鳥や籠抜けた種は (C) として和名の後に記載した。表1ではコジュケイ以外の外国産鳥類は除いた。

表1 千葉市・美浜区埋立地鳥類目録(2)

Falconiformes	ワシタカ目		79. <i>Pluvialis squatarola</i>	ダイゼン	(M)
Accipitridae	ワシタカ科		80. <i>Microsarcops cinereus</i>	ケリ	(M)
55. <i>Pandion haliaetus</i>	ミサゴ	(M)	81. <i>Vanellus vanellus</i>	タゲリ	(M)
56. <i>Milvus migrans</i>	トビ	(M)	Scolopacidae	シギ科	
57. <i>Accipiter gentilis</i>	オオタカ	(M)	82. <i>Arenaria interpres</i>	キョウジョシギ	(M)
58. <i>Buteo buteo</i>	ノスリ	(M)	83. <i>Calidris mauri</i>	ヒメハマシギ	(M)
59. <i>Butastur indicus</i>	サシバ	(M)	84. <i>Calidris ruficollis</i>	トウネン	(M)
60. <i>Circus cyaneus</i>	ハイイロチュウビ	(W)	85. <i>Calidris minuta</i>	ニシトウネン	(M)
61. <i>Circus aeruginosus</i>	チュウビ	(W)	86. <i>Calidris subminuta</i>	ヒバリシギ	(M)
Falconidae	ハヤブサ科		87. <i>Calidris temminckii</i>	オジロトウネン	(M)
62. <i>Falco peregrinus</i>	ハヤブサ	(M)	88. <i>Calidris bairdii</i>	ヒメウズラシギ	(M)
63. <i>Falco columbarius</i>	コチョウゲンボウ	(W)	89. <i>Calidris melanotos</i>	アメリカウズラシギ	(M)
64. <i>Falco tinnunculus</i>	チョウゲンボウ	(R)	90. <i>Calidris acuminata</i>	ウズラシギ	(M)
Galliformes	キジ目		91. <i>Calidris alpina</i>	ハマシギ	(W)
Phasianidae	キジ科		92. <i>Calidris ferruginea</i>	サルハマシギ	(M)
65. <i>Coturnix coturnix</i>	ウズラ	(M)	93. <i>Calidris canutus</i>	コオバシギ	(M)
66. <i>Bambusicolathoracica</i>	コジュケイ	(C)	94. <i>Calidris tenuirostris</i>	オバシギ	(M)
67. <i>Phasianus colchicus</i>	キジ	(R)	95. <i>Crocethia alba</i>	ミュビシギ	(M)
Gruiformes	ツル目		96. <i>Eurynorhynchus pygmeus</i>	ヘラシギ	(M)
Rallidae	クイナ科		97. <i>Philomachus pugnax</i>	エリマキシギ	(M)
68. <i>Porzana fusca</i>	ヒクイナ	(S)	98. <i>Limicola falcinellus</i>	キリアイ	(M)
69. <i>Gallinula chloropus</i>	バン	(S)	99. <i>Tringa erythropus</i>	ツルシギ	(M)
70. <i>Fulica atra</i>	オオバン	(M)	100. <i>Tringatotanus</i>	アカアシシギ	(M)
Charadriiformes	チドリ目		101. <i>Tringastagnatilis</i>	コアオアシシギ	(M)
Rostratulidae	タマシギ科		102. <i>Tringanebularia</i>	アオアシシギ	(M)
71. <i>Rostratula benghalensis</i>	タマシギ	(S)	103. <i>Tringaglareola</i>	タカブシギ	(M)
Haematopodidae	ミヤコドリ科		104. <i>Tringabrevipes</i>	キアシシギ	(M)
72. <i>Haematopus ostralegus</i>	ミヤコドリ	(W)	105. <i>Tringahypoleucos</i>	イソシギ	(M)
Charadriidae	チドリ科		106. <i>Xenus cinereus</i>	ソリハシシギ	(M)
73. <i>Charadrius hiaticula</i>	ハジロコチドリ	(M)	107. <i>Limosa limosa</i>	オグロシギ	(M)
74. <i>Charadrius dubius</i>	コチドリ	(S)	108. <i>Limosa lapponica</i>	オオソリハシシギ	(M)
75. <i>Charadrius alexandrinus</i>	シロチドリ	(R)	109. <i>Numenius arquata</i>	ダイシャクシギ	(M)
76. <i>Charadrius mongolus</i>	メダイチドリ	(M)	110. <i>Numenius madagascariensis</i>	ホウロクシギ	(M)
77. <i>Charadrius leschenaultii</i>	オオメダイチドリ	(M)	111. <i>Numenius phaeopus</i>	チュウシャクシギ	(M)
78. <i>Pluvialis dominica</i>	ムナグロ	(M)	112. <i>Scolopax rusticola</i>	ヤマシギ	(M)
			113. <i>Gallinago gallinago</i>	タシギ	(M)
			114. <i>Gallinago hardwickii</i>	オオジシギ	(M)
			Recurvirostridae	セイタカシギ科	

学名と和名の次に渡りの区別を記載した。留鳥(R)、夏鳥(S)、冬鳥(W)、旅鳥(M)に分けた。観察回数が少ない種でも千葉市付近で繁殖する種は留鳥や夏鳥とした。また、飼い鳥や籠抜けした種は(C)として和名の後に記載した。表1ではコジュケイ以外の外国産鳥類は除いた。

表1 千葉市・美浜区埋立地鳥類目録(3)

115. <i>Himantopus himantopus</i>	セイタカシギ	(M)	142. <i>Otus bakkamoena</i>	オオコノハズク	(W)
Phalaropodidae	ヒレアシシギ科		143. <i>Strix uralensis</i>	フクロウ	(R)
116. <i>Phalaropus lobatus</i>	アカエリヒレアシシギ	(M)			
Glareolidae	ツバメチドリ科		Apodiformes	アマツバメ目	
117. <i>Glareola maldivarum</i>	ツバメチドリ	(M)	Apodidae	アマツバメ科	
Stercorariidae	トウゾクカモメ科		144. <i>Apus pacificus</i>	アマツバメ	(M)
118. <i>Stercorarius pomarinus</i>	トウゾクカモメ	(M)	Coraciiformes	ブッポウソウ目	
119. <i>Stercorarius parasiticus</i>	クロトウゾクカモメ	(M)	Alcedinidae	カワセミ科	
120. <i>Stercorarius longicaudus</i>	シロハラトウゾクカモメ	(M)	145. <i>Alcedo atthis</i>	カワセミ	(M)
Laridae	カモメ科		Piciformes	キツツキ目	
121. <i>Larus ridibundus</i>	ユリカモメ	(W)	Picidae	キツツキ科	
122. <i>Larus argentatus</i>	セグロカモメ	(W)	146. <i>Jynx torquilla</i>	アリスイ	(M)
123. <i>Larus schistisagus</i>	オオセグロカモメ	(W)	147. <i>Dendrocopos kizuki</i>	コゲラ	(R)
124. <i>Larus hyperboreus</i>	シロカモメ	(W)			
125. <i>Larus canus</i>	カモメ	(W)	Passeriformes	スズメ目	
126. <i>Larus crassirostris</i>	ウミネコ	(M)	Alaudidae	ヒバリ科	
127. <i>Larus saundersi</i>	ズグロカモメ	(M)	148. <i>Alauda arvensis</i>	ヒバリ	(R)
128. <i>Larus stridactylus</i>	ミツユビカモメ	(M)	Hirundinidae	ツバメ科	
129. <i>Sterna leucophaea</i>	ハジロクロハラアジサシ	(M)	149. <i>Riparia riparia</i>	ショウドウツバメ	(M)
130. <i>Sterna hybrida</i>	クロハラアジサシ	(M)	150. <i>Hirundo rustica</i>	ツバメ	(S)
131. <i>Sterna caspia</i>	オニアジサシ	(M)	Motacillidae	セキレイ科	
132. <i>Sterna bergii</i>	オオアジサシ	(M)	151. <i>Motacilla cinerea</i>	キセキレイ	(M)
133. <i>Sterna hirundo</i>	アジサシ	(M)	152. <i>Motacilla alba</i>	ハクセキレイ	(R)
134. <i>Sterna dougallii</i>	ベニアジサシ	(M)	153. <i>Motacilla grandis</i>	セグロセキレイ	(M)
135. <i>Sterna fuscata</i>	セグロアジサシ	(M)	154. <i>Anthus hodgsoni</i>	ビンズイ	(W)
136. <i>Sterna albifrons</i>	コアジサシ	(S)	155. <i>Anthus spinoletta</i>	タヒバリ	(W)
Alcidae	ウミスズメ科		Pycnonotidae	ヒヨドリ科	
137. <i>Brachyramphus marmoratus</i>	マダラウミスズメ	(M)	156. <i>Hypsipetes amaurotis</i>	ヒヨドリ	(R)
138. <i>Synthliboramphus wumizusume</i>	カンムリウミスズメ	(M)	Laniidae	モズ科	
			157. <i>Lanius bucephalus</i>	モズ	(R)
Columbiformes	ハト目		Muscicapidae	ヒタキ科	
Columbidae	ハト科		158. <i>Tarsiger cyanurus</i>	ルリビタキ	(M)
139. <i>Streptopelia orientalis</i>	キジバト	(R)	159. <i>Phoenicurus auroreus</i>	ジョウビタキ	(W)
			160. <i>Saxicolator quata</i>	ノビタキ	(M)
Strigiformes	フクロウ目		161. <i>Monticola solitarius</i>	イソヒヨドリ	(M)
Strigidae	フクロウ科		162. <i>Turdus chrysolus</i>	アカハラ	(W)
140. <i>Asio otus</i>	トラフズク	(W)	163. <i>Turdus pallidus</i>	シロハラ	(W)
141. <i>Asio flammeus</i>	コミミズク	(W)			

学名と和名の次に渡りの区別を記載した。留鳥(R)、夏鳥(S)、冬鳥(W)、旅鳥(M)に分けた。観察回数が少ない種でも千葉市付近で繁殖する種は留鳥や夏鳥とした。また、飼いや籠抜けした種は(C)として和名の後に記載した。表1ではコジュケイ以外の外国産鳥類は除いた。

表1 千葉市・美浜区埋立地鳥類目録(4)

164. <i>Turdusnaumanni</i>	ツグミ	(W)	181. <i>Carduelissinica</i>	カワラヒワ	(R)
165. <i>Cettiadiphone</i>	ウグイス	(W)	182. <i>Carduelisspinus</i>	マヒワ	(W)
166. <i>Megaluruspryeri</i>	オオセッカ	(M)	183. <i>Coccothraustescoccothraustes</i>	シメ	(W)
167. <i>Acrocephalusbistrigiceps</i>	コヨシキリ	(S)	Ploceidae	ハタオリドリ科	
168. <i>Acrocephalusarundinaceus</i>	オオヨシキリ	(S)	184. <i>Passermontanus</i>	スズメ	(R)
169. <i>Regulusregulus</i>	キクイタダキ	(W)	Sturnidae	ムクドリ科	
170. <i>Cisticolajuncidis</i>	セッカ	(R)	185. <i>Sturnuscineraceus</i>	ムクドリ	(R)
171. <i>Ficedulanarcissina</i>	キビタキ	(M)	Corvidae	カラス科	
172. <i>Terpsiphoneatrocaudata</i>	サンコウチョウ	(M)	186. <i>Garrulusglandarius</i>	カケス	(M)
Remizidae	ツリスガラ科		187. <i>Cyanopicacyana</i>	オナガ	(R)
173. <i>Remizpendulinus</i>	ツリスガラ	(M)	188. <i>Corvuscorone</i>	ハシボンガラス	(R)
Paridae	シジュウカラ科		189. <i>Corvusmacrorhynchos</i>	ハシブトガラス	(R)
174. <i>Parusmajor</i>	シジュウカラ	(R)			
Zosteropidae	メジロ科		外国産鳥類 (外来種)		
175. <i>Zosteropsjaponicus</i>	メジロ	(R)	1. <i>Cygunusatratrus</i>	コクチョウ	(C)
Emberizidae	ホオジロ科		2. <i>Columbalivia</i>	ドバト	(C)
176. <i>Emberizacioides</i>	ホオジロ	(R)	3. <i>Geopeliacuneata</i>	ウスユキバト	(C)
177. <i>Emberizafucata</i>	ホオアカ	(M)	4. <i>Melopsittacusundulatus</i>	セキセイインコ	(C)
178. <i>Emberizarustica</i>	カシラダカ	(W)	5. <i>Amandavaamandava</i>	ベニスズメ	(C)
179. <i>Emberizaspocephala</i>	アオジ	(W)	6. <i>Lonchuramalaccaatricapilla</i>	キンバラ	
180. <i>Emberizaschoeniclus</i>	オオジュリン	(W)		(ギンバラの1亜種)	(C)
Fringillidae	アトリ科		7. <i>Euplectesorix</i>	キンランチョウ	(C)

学名と和名の次に渡りの区別を記載した。留鳥 (R)、夏鳥 (S)、冬鳥 (W)、旅鳥 (M) に分けた。観察回数が少ない種でも千葉市付近で繁殖する種は留鳥や夏鳥とした。また、飼い鳥や籠抜けした種は (C) として和名の後に記載した。表1ではコジュケイ以外の外国産鳥類は除いた。



幕張C浜 幕張の浜 花見川河口

東京湾

■ 幕張埋立地



図1. 幕張埋立地およびその周辺